公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成29年4月1日発行（毎月1回1日発行）通巻566号

ハンドボール

3・4
MAR. APR. 2017 No.566

特集
第25回 男子世界選手権
全日本社会人チャレンジ2017
平成29年度 日本協会事業計画



［表紙写真］第25回男子世界選手権、チリ戦の日本代表：写真提供・スポーツイベント社

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/


ANA Inspiration of JAPAN
A STAR ALLIANCE MEMBER
www.ana.co.jp
30th Anniversary International Service
これからも、5つ星の空で。
空を旅するすべてのお客さまに、ご満足いただける快適な時間と空間を。
今日もANAは5つ星のサービスで、みなさまを目的地にご案内しています。
5 STAR AIRLINE
SKYTRAX
英国のエアライン格付機関ＳＫＹＴＲＡＸ社が主宰するエアライン・スターランキングで
４年連続、世界最高評価「5STAR」を獲得。ANAは日本で唯一の5スターエアラインです。

「世界でメダルを獲る、アジアの盟主となる」



公益財団法人 日本ハンドボール協会 副会長 兼 専務理事　**蒲生 晴明**

本年2月11日(土)に開催された当協会理事会で、平成29年度事業計画と新年度予算が承認され、いよいよ2020年に向けた新しいオリンピアード（4年間）がスタートしました。

2019年の熊本女子世界選手権、2020年東京オリンピックに向けた、日本ハンドボール界のチャレンジが具体化してまいります。

私たちは**「世界でメダルを獲る、アジアの盟主となる」**ことを目指し、関係者一丸となってその目標達成のために邁進しなくてはなりません。

しかし、その道のりは決して平坦なものではなく、女子世界選手権までは2年半余り、オリンピックまでは3年半と残された時間は限られております。そして、2019年・2020年は我々にとって通過点に過ぎず、2024年に自力でオリンピックに出場し、メダルにチャレンジするというさらなる高い峰が待ち構えております。

日本のハンドボールは男子が1988年のソウル五輪、女子が1976年のモントリオール五輪を最後にオリンピック出場から遠ざかっています。2020年はIFの規程で開催国が出場権を有する千載一遇のチャンスですが、単に出場するだけでなく結果を残すことが問われているのです。

私は、昨年6月に副会長兼専務理事に就任し、8月に東京に移住して、常勤専従で**「世界でメダルを獲る、アジアの盟主となる」**ために、役職員、関係者の皆様との連携協力のもとその任に当たっております。、

将来に大きなビジョンと夢を持ちながら、大目標を達成するために、日々、全力で仕事をしたいと願っています。

幸い、昨年には世界最高峰の監督である、女子代表のウルリック・キルケリー氏、男子代表のダグル・シグルドソン氏を招聘することができました。協会は両氏の指導の下、着実な国際競技力向上に努めております。

2017年度は、東アジアU22、JAPAN CUPキール招待国際試合、日韓戦、熊本プレ女子大会などの国内で国際試合を開催する事を機会に、ハンドボールの強化をおこなうだけでなく、ハンドボール自体の魅力をプロモーションし、1人でも多くのファンに会場に来ていただく事を目指しております。

また、ハンドボール関係者には国際試合運営を体験していただき、競技運営面でのノウハウ・経験を2019-2020に繋げて行くつもりです。

一方で今年から広報改革の一環として、公式サイト（ホームページ）をリニューアルしました。ハンドボール関係者だけでなく、多くの方にハンドボールを理解していただき応援していただくために、情報満載、発信型のホームページとして生まれ変わりました。メディアをはじめ日本全国の皆様にタイムリーな情報をお伝えできるよう随時「記者会見」なども開催して行きます。

日本のハンドボールの改革を推進し成功させるためには、確実な事業執行と仕組み作り、改革の見える化、効果的な予算執行、事務局機能改善などが不可欠であると考えておりますが、少しずつその成果が表れてきていることを実感しております。

そして、その改革の原動力としての資金確保、マーケティングは、喫緊の課題です。現在、専門家のノウハウをお借りして積極的なマーケティングを進めています。

将来構想については、2020以降のレガシーとあるべき姿の検討、JHA自立運営、競技者登録人口の劇的増加などの課題があります。

しかし、すべては！**「世界でメダルを獲る、アジアの盟主となる」**ために関係者が力を合わせることで、目標は達成可能であると信じています。

第25回
男子世界選手権

開催期間：2017年1月11日～1月29日
開催地：フランス・リール、パリ、モンペリエ、ルーアン



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

選手団名簿

役職	名前	所属	
団長	蒲生晴明	(公財)日本ハンドボール協会	
強化本部長	田口　隆	(公財)日本ハンドボール協会	
監督	カルロス　オルテガ	(公財)日本ハンドボール協会	
コーチ	ネメシュ　ローランド	(公財)日本ハンドボール協会	筑波大学
コーチ	吉村　晃	(公財)日本ハンドボール協会	豊田合成
GK コーチ	北林健治	(公財)日本ハンドボール協会	都城工業高校
ドクター	有田　忍	(公財)日本ハンドボール協会	陽明会小波瀬病院
トレーナー	寺尾邦仁	(公財)日本ハンドボール協会	永井接骨院
分析	市村志朗	(公財)日本ハンドボール協会	東京理科大学
分析	永野翔太	(公財)日本ハンドボール協会	筑波大学
統括	田中　茂	(公財)日本ハンドボール協会	

背番号	名前	所属	出身校	国際試合	
				試合	得点
4	武田 享	豊田合成	国士舘大学	89	102
5	高智 海吏	トヨタ車体	大阪体育大学	73	178
6	加藤 嵩士	大同特殊鋼	愛知大学	35	34
8	渡部 仁	トヨタ車体	日本大学	33	116
9	森　淳	大崎電気	大阪体育大学	59	54
10	小室 大地	大崎電気	日本体育大学	25	16
12	木村 昌丈	大崎電気	日本体育大学	22	0
17	植垣 健人	大崎電気	大阪体育大学	16	48
19	徳田 新之介	筑波大学	岩国工業高校	8	20
21	甲斐 昭人	トヨタ車体	日本体育大学	58	0
23	小塩 豪紀	豊田合成	中京大学	3	7
24	信太 弘樹	大崎電気	日本体育大学	47	141
25	元木 博紀	大崎電気	日本体育大学	29	73
27	玉川 裕康	国士舘大学	浦和学院高校	初	
29	東江 雄斗	大同特殊鋼	早稲田大学	9	18
30	成田 幸平	湧永製薬	大阪体育大学	34	73
31	銘苅 淳	Angel Ximenez（ESP）	筑波大学	10	37
32	土井 レミイ 杏利	Chambery（FRA）	日本体育大学	8	22
33	志水 孝行	湧永製薬	大阪体育大学	25	0

最終順位

優　勝：フランス
準優勝：ノルウェー
3 位：スロベニア
4 位：クロアチア
5 位：スペイン
6 位：スウェーデン
7 位：ハンガリー
8 位：カタール
9 位：ドイツ
10 位：デンマーク
11 位：ベラルーシ
12 位：ロシア
13 位：エジプト
14 位：アイスランド
15 位：マケドニア
16 位：ブラジル
17 位：ポーランド
18 位：アルゼンチン
19 位：チュニジア
20 位：サウジアラビア
21 位：チリ
22 位：**日本**
23 位：バーレーン
24 位：アンゴラ

第25回男子世界選手権を終えて

強化本部長　田口　隆

去る1月11日の代表者会議に始まり、翌日12日から競技が開催され（開幕カードのフランスVSブラジル戦のみ11日実施）、1月29日の決勝までの19日間、フランスのナント・メス・ルーアン・パリで予選リーグ、アルベールヴィル・モンペリエ・リール・パリで決勝トーナメントがそれぞれ開催されました。

私たち日本チームは10日に事前合宿地のスペインからAグループの開催地であるナントに入りました。チームの半分以上のスタッフ・選手の荷物が到着せず、翌日まで少々不自由ではあったもののチームには動揺もなく、到着後のトレーニングも予定通り行いました。翌日には荷物も無事に到着し安心することとはなりました。私たちの滞在するホテルには、ポーランド・ノルウェーも滞在することとなっていました。ブラジル・ロシアは他のホテルでの滞在となっており試合会場以外では会うこともありませんでした。地元フランスだけは単独で別のホテルでの滞在となっていました。

11日の代表者会議には当日、パリで開幕戦を戦うフランスとブラジルを除く4か国が参加して行われました。大会の運営上の諸注意に加え、ユニフォームの確認・メンバー登録（パスポートチェック）といった具合で特別に何か変化があったものではありませんでした。

日本チームが3大会ぶりの出場ということもあったかもしれませんが、以前と比べてセキュリティー（警備・警護）が厳重であったように感じました。ホテルの入り口には常に防弾着を着用して銃を携帯した警官・軍人が常駐していました。ホテルのレストランでそのような方々が食事する姿を見るところによると相当な人数で参加チーム関係者の安全を維持していただいていたようでした。それ以外にもチームには常にチーム専任のガードマンが随行するといった何重にも非常事態に備えた警備・警護体制になっていました。世界の色々なところで発生しているテロの脅威も感じるものでもありました。

大会の結果は残念ではありますが、予選リーグを突破出来ずプレジデントカップに回ることとなり最終的には第22位という結果に終わりました。

初戦のロシア戦での後半の立ち上がりでゲームを振り出しに戻したこと、ブラジル・ポーランド戦での惜敗など予選リーグ突破を目指して相手チームにプレッシャーをかけて最後まで戦いましたが、大変悔しい結果となりました。プレッシャーをかけたのも事実ですが、反面幾つかの課題も残りました。

ディフェンス力の強化が挙げられます。

勝負所で簡単に1vs 1を破られることがありました。２～３回のディフェンスを成功させられれば勝利を手中にできた試合がブラジル・ポーランド戦でした。

ゴールキーパーのシュート阻止率を上げること。予選リーグ5試合で14%～29%（平均24%）でした。世界のトップクラスと云われる選手たちのシュート技術は数段レベルアップしています。

シュートの精度を上げること。

オルテガ監督はじめスタッフの丁寧な指導の下に規律・規範を大切にしたオフェンスシステムを構築してプレーしたことも影響して確率の良いシュート場面を創出してシュート成功率を55%程度（フランス・ノルウェー戦除く）までにあげましたが、大型GKに対するノーマークシュートの対策は今後も必要と考えます。これらは表裏の関係でもあると思います。

今後はこれらを中心に、ダグル シグルドソン新監督の下に、体力・技術・精神力を伸ばして、あらゆる場面での戦術力（チーム力）を伸ばすことを期待したいところです。選手たちが得た感覚と流した悔し涙は、将来の成功のための貴重な経験であったと思います。

最後に、スタッフ・選手を派遣いただきました所属先の関係各位、その他多くの方々のご支援・ご声援に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

第25回男子世界選手権における情報分析

情報分析　市村 志朗

一般的に情報分析担当者の業務は、コーチング支援と対戦相手チームのスカウティングのための量的・質的分析を行います。今回は、世界選手権の事前合宿および世界選手権大会中に行った情報分析業務について報告いたします。

スペインでの世界選手権に向けた事前強化合宿時には、私たち分析担当者は、チームのコーチング支援を中心に行いながら、加えて、スカウティングのための予選リーグでの対戦チームの試合映像の取得を行いました。コーチング支援では、①オルテガ監督やコーチが効率よくプレイの質的評価を行えるようにするための映像の作成、②オルテガ監督からの指示による映像編集、③戦術練習時の量的分析データの算出、④ミーティングでのプレゼンテーション資料の作成を行いました。①、②、③によって量的・質的に分析させた戦術練習内容は、短時間の映像資料にまとめ、トレーニング前のミーティングにて提示され、主にオルテガ監督から評価点および反省点が伝えられました。また、選手たちがいつでも、これらの内容を振り返ることができるように、このミーティングの撮影も行い、選手たちに対してはトレーニング映像のみならず、ミーティング映像の提供を行いました。さらに、本チームは、攻撃・守備共に多くの約束事が存在していたことから、今までのすべての編集映像を用いたプレイブックの作成を行いました。このプレイブックは大会期間中であっても常にアップデートを行い、選手たちがいつでも視聴できるような環境を作成しました。

対戦チームスカウティングでは、事前強化合宿前にリオ五輪、ヨーロッパ選手権予選などの映像からいくつかのチームは終了していました。ただ、オルテガ監督は常に新しい情報を欲していたことから、世界選手権の直前に行われていた様々な国際トーナメントの情報を収集し、対戦チームの試合映像の取得・分析を行いました。特に、初戦に対戦するロシアを優先的に分析しました。この分析では、「Attack」、「Retreat」、「Defense」、「FastBreak」の4局面に分類し、それぞれの局面にて、「個人的なプレイ、戦術的に意図のないプレイ、戦術的なプレイ」と分類し、使用頻度の多い順に提示することで、どのようなプレイを行っているのかを明らかにしました。その後、監督・コーチがそれら戦術プレイの質的な分析を行うことで、ロシアチームの攻撃・守備の特徴と質を明らかにしました。また、当然、ロシアチームの攻撃・守備戦術に合わせた戦術練習も行われました。

フランスでの大会期間では、対戦チームスカウティングを中心に、コーチング支援としての自チームの評価も行いました。これらの業務比率は6対4程度でありました。対戦チームスカウティングでは、前述しましたように、「どのようなプレイ」が「どのような頻度」で行われていたかを私たち分析担当者が明らかにし、その戦術的なプレイの質は、監督・コーチが評価しました。加えて、選手たちのモチベーションアップのため試合ごとにモチベーションビデオを作成しました。このモチベーションビデオは、大会準備期から素材を準備し、大会中の試合映像も用いて、成功プレイや歓喜のシーンを中心に抽出して作成しました。映像は、試合直前に視聴し、視聴後の選手たちはやる気に満ちた状態になっていました。

予選リーグ終了後には、公式記録を用いた全チームの攻撃・守備様相について簡単な分析を行いました。分析項目は、攻撃では「攻撃回数に対するシュート生起率」と「攻撃回数に対する得点率」を、守備では「守備に対する被シュート生起率」と「守備回数に対する失点率」でありました。この結果、予選リーグを突破したほとんどのチームは、攻撃では「攻撃回数に対するシュート生起率」が80%以上かつ、「攻撃回数に対する得点率」が45%以上、守備では、「守備に対する被シュート生起率」が83%未満かつ、「守備回数に対する失点率」が51%以下でありました。日本チームのこれらの値は、「攻撃回数に対するシュート生起率」で80.7%、「攻撃回数に対する得点率」で39.9%、「守備に対する被シュート生起率」で81.2%、「守備回数に対する失点率」で50.4%であり、「攻撃回数に対する得点率」のみが予選突破のために必要であった値を超えることが出来ていなかったことがわかりました。

最後に、カルロス・オルテガ氏が監督を務めた日本男子代表チームは、おおよそ1年間と短い期間の活動ではありましたが、情報分析担当の私たちにとっては、非常に内容の濃い活動でありました。これからの日本のハンドボール界にとって、カルロス・オルテガ監督から得た知識や、監督からの高い要求に応えるために開発した分析手法や技能を、ここで途絶えさせることなく次に繋げていくことが重要であると感じております。

■ 1月12日（木）

ロシア　39（18 ― 15、21 ― 14）29　日本

第25回男子世界選手権フランス大会初戦は、ロシアとの対戦。スタートの日本の布陣は、左サイド土井、右サイド渡部、左45信太、右45高智、センター植垣、ピヴォット加藤、DFは植垣に替わり成田、GK志水で強豪ロシアに挑む。

前半立ち上がり、日本はミスによりロシアに先制点、さらに連続得点で0対4と立ち上がりにリズムが取れずロシアに先行を許す展開に。日本は、5分過ぎに植垣がミドルシュートを決め得点を上げるが、その後も、ロシアが得点を重ね、15分には6対12と6点差をつけられる。このままロシアペースで試合は進むかと思われたが、日本はDFを5-1DFに変更しアグレッシブにプレスをかけることで相手にプレッシャーをかけるとともに、速攻、2次速攻、またクイックスタートで得点を上げ、前半を15対18の3点差で折返す。

後半日本は、前半に引き続き5-1DFで積極的にロシアにプレッシャーをかけ守り、攻撃では土井のサイド、速攻の連続得点、徳田切れのあるカットイン、小塩のサイド、小室のポストシュートと連続得点を奪い、後半10分には、24対25の1点差まで追いつくが、ロシアもプレッシャーを受けながらもパスを繋ぎ、№20ポストにボールを集め41分以降、日本の攻撃でのミスも重なりロシアに連続5得点を許し、後半15分には再び6点差となる30対24の展開に。その後も日本はカットイン、サイドとシュートチャンスはあるが、ロシアGKに止められなかなか連続得点を奪えない。その間もロシアはポスト、カットインと得点を重ね、25分には35対28となったところでタイムアウトを請求。日本は7人攻撃を仕掛けるが、シュートミスからロシアGKにシュートを直接決められる。最後は東江のミドルシュートで得点を上げるが、39対29の10点差で試合終了となる。

■ 1月13日（金）

フランス　31（17 ― 9、14 ― 10）19　日本

第25回男子世界選手権フランス大会2戦目は、前回大会優勝国、地元フランスとの対戦。スタートの日本の布陣は、初戦と同様に、左サイド土井、右サイド渡部、左45信太、右45高智、センター植垣、ピヴォット加藤、DFは植垣に替わり成田、GKは木村でフランスに挑む。

前半立ち上がり、日本は最初の攻撃で、植垣が積極的にシュートを狙い、強烈なミドルシュートを決め先制点を上げる。フランスも最初の攻撃で、右サイドのポルテが決め試合はスタートした。その後、日本は攻撃で長い時間ボールを保持し、1対1を狙い、相手の隙を見て早いパス回しから、カットイン、ミドルシュートを狙う作戦にでるが、なかなかフランスDFを崩すことができないが、植垣の連続ミドルシュートで日本は得点を上げる。フランスもポストを中心に攻め、幾度となくポストシュートでの7mT獲得で得点を奪いにくるが、日本GK木村が、7mTをセーブし、ミドルシュートもセーブし、フランスも流れをつかめない。前半18分過ぎに日本はこの試合初めて、東江7mT、植垣のカットインと連続得点を奪い、20分には8対10の2点差まで追い上げる。その後、フランスは日本のセットOFをフランスGKオメーラを中心にことごとく守り、前半残り10分、渡部の速攻による1得点に抑える間に、フランスはポルテのサイド、ナルシスのミドルシュートなどで連続6得点を上げ、前半を9対17の8点差で折返す。

後半日本は、前半のスタートメンバーから両サイドを、元木、小塩に替え後半に挑む。フランスは後半、全てのポジションをスタートメンバーから替え、後半はフランスがスタートから連続得点を奪い、また日本にいい形でシュートを打たせない鉄壁の守りをみせ、後半開始から10分間日本はフランスのDFを崩すことができず、得点を奪えない。後半の日本の最初の得点は、10分過ぎ、東江が7mTを決め10得点目をようやく奪う。その後もフランスはセンターのカラバティチを中心に攻め、サイドシュート、ポストシュート、ミドルシュートと様々な多彩な攻撃パターンで日本DFにプレッシャーをかけ得点を奪いにくる。日本は後半、攻撃で投入した徳田がカットイン、ミドルシュートと連続得点で得点を奪うが、後半24分にはこの試合最大の15点差の15対30となる、日本も残り5分で意地を見せ、徳田、銘苅、玉川、成田で4連続得点を奪うが、最後には、フランスエース、カラバティチにミドルシュートを決められ、31対19で、2戦目のフランス戦を終了する。

■ 1月15日（日）

ブラジル　27（14 ― 12、13 ― 12）24　日本

第25回男子世界選手権フランス大会3戦目は、ブラジルとの対戦。スタートの日本の布陣は、初戦、2戦目と同様に、左サイド土井、右サイド渡部、左45信太、右45高智、センター植垣、ピヴォット加藤、DFは植垣に替わり成田、GKは木村でブラジルに挑む。

前半立ち上がり、日本は最初の攻撃で、高智が積極的にシュートを狙い、強烈なミドルシュートを決め先制点を上げる。ブラジルも最初の攻撃で№19がサイドシュートを決め試合はスタートした。その後、日本もブラジルもお互いに粘り強く守り、また両チーム共にスピードある攻撃を展開し一進一退のまま試合は進み、前半15分、7対7とどちらも譲らないまま、意地と意地のぶつかり合いの攻防が続く。22分過ぎ、№19のサイド、また№4のシュートでブラジルが連続得点を上げる。その後、植垣が1得点返すが、25分過ぎ再び、ポスト、サイド、ロングと決められ、10対14の4点差となるが、日本はサイドの渡部が相手パスカットから速攻、またサイドシュートを決めて2連続得点を上げ、前半を12対14の2点差のブラジルリードで終了する。

後半日本は、スタートの布陣でDFを守り、OFに高智に替わり、徳田を投入する。後半も両チーム共に堅い守りと、GKの度重なるスーパーセーブでお互いに流れの掴み合いの中で、後半OFで投入された右45の徳田が1対1を切り崩し、連続得点を上げなんとか流れを掴もうとするものの、ブラジルも替わって入ったGKが7mTをセーブし、日本に傾きかけた流れを止める働きを見せる。日本も残り10分、22対19の場面から、GKを下げて7人攻撃で攻めるが、点を取っては取られてしまい、なかなか得点差が縮まらないまま、試合は残り5分、25対21の4点差をなんとか追いつこうと、再び7人攻撃で日本は攻め、徳田が連

続で得点を上げるが、日本はDFで退場者を出し、最終的に挽回することができず、27対24の3点差で試合終了となる。この試合、GK木村を中心に粘り強く守った日本ではあったが、攻撃でのミスが最後まで得点差を縮める事ができなかった試合内容であった。

■1月17日（火）

ポーランド　26（9－11、17－14）25　日本

第25回男子世界選手権フランス大会4戦目は、ポーランドとの対戦。スタートの日本の布陣は、今までの試合と同様に、左サイド土井、右サイド渡部、左45信太、右45高智、センター植垣、ピヴォット加藤、DFは植垣に替わり成田、GKは木村でポーランドに挑む。

前半立ち上がり日本は、エース信太のミドルシュート、加藤のポストシュートで連続得点を奪い好スタートを切る。ポーランドも開始4分過ぎようやく、№26のサイドシュートで得点を上げるが、日本もDFで粘り強く守り、ポーランドのボールを奪い速攻に持ち込み、信太がスカイシュートを鮮やかに決め、日本が流れを掴むかに見えたが、OFでシュートミス、またチャージング等のミスを連続でし、またポーランドも攻撃のリズムが掴めず、なかなか両チーム共に流れを掴めないまま、10分3対2と両チーム共にロースコアーの守り合いの時間が過ぎる。日本は、ポーランドのエース№48に対し、ロングシュートを打たせないよう、またしっかりとピヴォットをマークしDFで機動力を発揮して守る。しかしOFでなかなか思うように得点を奪えず25分、7対8と逆転を許す。しかしポーランドもなかなか連続得点を奪えずリズムに乗れない。26分過ぎポーランドの退場をきっかけに、日本は、徳田のミドルシュート、植垣のカットイン、信太の速攻、東江の7mTと前半終盤で4連続得点を奪い11対8と逆転、前半最後にポーランドに1点を返されたが、前半11対9の2点差とし、日本がこの大会初めてリードを奪い折り返す。

後半、日本は両サイドを元木、小塩、そしてセンターDFに玉川を投入しスタートとする。後半は、ポーランドに先行されるものの、日本は信太がミドルシュートを連続で決め、一進一退の攻防が続くが、後半10分過ぎ、ポーランド№33のミドルシュート、№26、№10と連続して速攻を決められ16対17とポーランドが逆転する。日本はタイムアウトを要求し立て直そうとするが、タイムアウト後の攻撃でミスをし、再び、№6に速攻を決められ16対18の2点差に。それでもここで日本はエース信太が気迫のシュートで連続得点を奪い、ポーランドに流れを渡さない。残り10分、ここでポーランドエースの№48にこの試合初得点を許し、19対22の3点差で最後の10分間に。日本も高智がこの試合初得点となるミドルシュートを決め、2点差にするが、ポーランドにも得点を許し、なかなか3点差が縮まらない。日本は勝負所と見て、52分04秒にタイムアウトをとり、3枚目のタイムを使い全ての指示を出し残り8分間に挑む。タイムアウト後、元木の速攻、加藤のポストシュートで再び1点差に。試合会場は多くの日本に対する応援で一気に盛り上がりを見せる。しかしポーランドも時間をかけ攻撃し、この試合5点目を上げた№26のシュートで再び2点差に。最後は徳田がロングシュートを決め1点差にはしたが、ラストとなる攻撃で得点を奪えず。25対26の1点差で試合終了となる。

■1月19日（木）

ノルウェー　38（19－14、19－9）23　日本

第25回男子世界選手権フランス大会予選グループ最終戦の5戦目は、ノルウェーとの対戦。スタートの日本の布陣は、左サイド小塩、右サイド元木、左45信太、右45徳田、センター東江、ピヴォット加藤、DFは東江に替わり成田、GKは木村でノルウェーに挑む。

この試合、日本は、攻撃でのミスの後のノルウェーの速攻を警戒していたが、前半立ち上がりから2本の速攻、またポストシュートで連続得点を奪われ0対3とスタートからノルウェーペースで試合が進む。日本もようやく、6分過ぎ徳田がミドルシュートを決めるも、ノルウェーのクイックスタートですかさず得点を奪われる。その後も、ノルウェーは日本のシュートミスからの速攻を中心に攻撃を組み立て、前半13分13秒、4対8となったところで日本はタイムアウトを要求。タイムアウト後、日本はリズムを変えるため、攻撃で銘苅、植垣、ピヴォットに玉川を投入し攻撃を組み立てなおすが、勢いのあるノルウェーに傾いた流れを戻すことができず、タイムアウト後も連続得点を奪われ、16分には、5対12と7点差となる。流れを引き戻すため日本は7人攻撃を仕掛け、東江、玉川、小塩の連続得点で20分には8対12と4点差まで詰める。日本も攻撃でリズムをとり、植垣のミドル、成田の2次速攻からのロング、玉川のポストシュートと得点を重ねたところで、ノルウェーもタイムアウトを要求。タイムアウト後、再び、ノルウェーに速攻を許すが、日本も終盤、元木、銘苅の連続速攻で、前半を14対19の5点差で折り返す。

後半立ち上がり、日本はチャンスこそあるものの、ノルウェーGKにことごとく阻まれ攻撃でリズムに乗れない。なんとか植垣のミドル、高智のミドルで対抗するが、後半の10分以降、ノル



写真提供：スポーツイベント社

ウェーの怒涛の攻撃に耐えきれず連続7失点をし、18対30と勝負がついてしまう。残りの10分、日本は徳田、土井、玉川、東江、銘苅と得点を奪うが、後半終盤での連続失点を縮めることができず、23対38の15点差で試合は終了する。ノルウェーの得点の5割以上が速攻、または速攻からの展開による得点で、本来、日本が得意とする素早い動きだが、1次速攻、その後の2次速攻ともに日本よりレベルの高いものであった。

■1月21日（土）

日本　37（18－14、19－12）26　アンゴラ

第25回男子世界選手権フランス大会、6戦目、順位決定戦は、予選グループB組6位のアンゴラとの試合。スタートの日本の布陣は、左サイド土井、右サイド渡部、左45信太、右45高智、センター東江、ピヴォット加藤、DFは東江に替わり成田、GKは木村でアンゴラに挑む。

この試合、日本は、最初の攻撃で渡部がサイドの角度のないところからシュートを決め日本が先制点を上げる。その後も日本は、東江のロング、土井のクイックスタートからの得点、高智のミドル、成田の2次速攻からのミドルなどで得点は奪うものの、アンゴラも警戒していた右45のロングシュート、個人技ではあるが素早い身のこなしからのフェイントでのカットイン、また力強いポストの押込みで得点を奪われる。日本は16分過ぎに9対10と1得点勝ち越されたところで、両45を銘苅、徳田に替え、DFも5-1DFで相手に高い状態からプレッシャーをかける戦術に変更し対応する。21分過ぎ、徳田のミドル、2連続速攻で23分には14対11と3点リードし流れは日本に。その後アンゴラもエース№79、№17の強烈なロングシュートで得点を奪うが、日本もアンゴラの2回の退場の機会に土井のサイドシュート、元木の速攻、東江のカットイン、銘苅のミドル、徳田のカットイント得点を奪い、前半を18対14の4点差で折り返す。

後半も前半同様、5-1DFから時には、3-3DFに変化して守り、アンゴラに攻撃のリズムを与えない間に、日本は36分過ぎ、土井、銘苅、徳田などが連続得点を奪う。アンゴラに1得点与えるも、再び日本は連続速攻、セットでも土井のサイド、徳田のカットインで得点を奪い、50分には、32対19と13点差と点差が広がる。その後も日本は攻撃を緩めることなく、得点を重ね最終的には、37対26の11点差で、この世界選手権初勝利を手にする。試合は前半途中から仕掛けた、5-1DFまたは、3-3DFが良く機能し、後半の速攻、またセット攻撃でも連続得点がこの試合の勝利を決定付けた内容の試合だった。この試合の優秀選手として8得点を取った、徳田選手が選ばれた。

■1月23日（月）

チリ　35（17－12、18－17）29　日本

第25回男子世界選手権フランス大会、最終戦、21、22位順位決定戦は、予選グループC組6位のチリとの試合。スタートの日本の布陣は、左サイド土井、右サイド渡部、左45信太、右45高智、センター東江、ピヴォット加藤、DFは東江に替わり成田、GKは木村でチリに挑む。

この試合、日本は、センター東江が試合開始から連続して得点を奪い、また9分過ぎには、加藤に替わって入ったピヴォット玉川が連続得点を奪い、チリがタイムアウトを要求した11分26秒には、9対5と日本が4点リードとなる。タイムアウト後は、チリに攻め込まれ、DFで受けてしまったところを、3連続7mTを決められ、前半19分、10対10の同点に追いつかれ、日本もタイムアウトを要求。タイムアウト後、替わって入った徳田がミドルシュートを決めるが、日本はチリ退場の間にも攻撃のリズムが取れず、チリが勢いに乗った攻撃で、26分過ぎ4連続得点を上げ、前半を12対17のチリ5点リードで折り返す。

後半、日本は、両サイドを元木、小塩に替え、開始早々に、小塩がポストで決め、元木、加藤と連続速攻を決め、リズムに乗るかと思われたが、攻撃でのミス、またシュートミスが重なり得点差を縮めることができない。後半6分からはチリに4連続得点を許し、16対23となった9分過ぎにタイムアウトを要求。攻撃を立て直すきっかけとして7人攻撃で攻め得点は奪うもののなかなか前半の5点差を縮めることができず、残り10分の攻防となる。日本は、逆転するために7人攻撃を継続して行うが、点を取っても、DFで守りきることができず、残り3分には、チリに32点目となる得点を与えたところで、26対32と6点差に。その後、日本も3点は取るが得点差は縮まらず、29対35の6点差で試合終了。世界選手権最終順位決定戦を終わる。この試合の結果、日本の最終順位は22位となった。前半の残り10分と、後半立ち上がり後の10分にテクニカルミス、シュートミスをしたことがこの試合の敗因となった。





2点共　写真提供：スポーツイベント社







４点共　写真提供：スポーツイベント社





2017男子世界選手権（フランス）帯同報告

医事委員　有田　忍

　このたび第 25 回男子世界選手権に帯同させていただきましたので御報告いたします。日本在住の選手・スタッフは日本選手権終了翌日の 2016.12.26 に ANTC に集合し、翌 12/27 に直前合宿地であるスペインへ出発、同地でオルテガ監督をはじめ、欧州在住の選手と合流し、スペイン各地で練習、トレーニングマッチを行いました。私は大会直前の 2017.1.9 に出発、1/10 に予選リーグ開催地のナント（Nantes）に到着、同日フランス入りする選手団と合流しました。私が合流するまでの約 2 週間は寺尾トレーナーに選手団の健康管理をお願いすることになりましたが、スペイン到着直後から嘔吐下痢、発熱を訴える選手が数名出てしまい、メールで投薬等の指示を出して対応していただきました。幸い大事には至らなかったようですが、時差もあるため対応に時間を要し、寺尾 Tr. をはじめ、選手団にご迷惑をおかけしてしまいました。

　ナントで選手団と合流当日、選手のコンディションをチェックしましたが、以前からの故障箇所に日本選手権やスペイン合宿での疲労が加わり、別メニュー調整となっている選手が若干名いました。16 名の登録メンバー提出まで 1 日半しかなく、オルテガ監督より出場の可否について意見を求められました。注射等の処置を行い、翌日のトレーニング 1 回で効果を見てプレーの可否を判断するという綱渡りとなりましたが、何とか試合に間に合わせることが出来ました。以上のことから、チームドクターは直前合宿から、もしくは大会開幕の数日前までには合流することが必要と感じました。長期のドクター確保が困難な場合は、複数名のドクターで前半、後半に分けて帯同するなど対応を検討する必要があると思います。

　以下にメディカルスタッフとして注意した点を項目ごとに列記します。

❶ 時差等の現地への順応：２週間前に隣国スペイン入りしており、時差への順応は問題ありませんでした。スペインと比べてナントは寒いとのことでしたが、緯度が高い（北海道宗谷岬よりも北）割には、それほど寒くなく大幅に体調を崩す者はいませんでした。また、念のため日本出発前にインフルエンザの予防接種の実施をお願いしましたが、所属チームで全員実施済みとのことでした。

❷ 食事：予選リーグ開催地のナントでは Westotel Nantes、President’ s cup 開催地のブレスト（Brest）では Hotel Escale Oceania Brest に滞在しましたが、両ホテルとも衛生面は問題ありませんでした。今回は海外遠征の経験が豊富なナショナルチームであったため、チームとして特に日本食の持ち込みは行いませんでしたが、ホテルの食事は味も良く、昼と夕食のメインメニューは毎日内容が変わる肉・魚のメニューからの選択で、飽きることなく食事摂取不良で体調を崩すような選手はいませんでした。私を含め数人が 1-2 日程度の軽い下痢を発症しましたが、経過観察または内服薬で軽快し、食事が摂れないような重傷者は出ませんでした。試合前後にはホテルに軽食が用意され、栄養補給に役立ちました。飲料水に関してもホテル、会場で充分量用意され、問題ありませんでした。



❸ 治安：フランスでは、2015 年 11 月リオ五輪予選の最終合宿（オーボンヌ・フランス）からカタール入りした２日後にパリでテロが発生し、その後に隣国ベルギーを含めテロが多発した経緯があり治安が心配されました。しかし大会側もセキュリティー対策に随分と力を入れており、ホテルや試合会場の出入り口はもちろんのこと、ホテルの廊下などにも自動小銃を携えた警察官（兵士？）が 24 時間警戒にあたって頂き、危険を感じることは全くありませんでした。

❹ チームサポート：今大会、日本のチーム係としてクリストフ氏と警官１名（ナント：トニー、ブレスト：ミハエル）が帯同して頂きました。クリストフ氏は日本居住経験があり、奥さんが日本人とのことで日本語もある程度話すことができ、選手、スタッフとのコミュニケーションもスムーズでした。63 歳とお若くはありませんでしたが、早朝から深夜まで献身的にサポートして下さいました。

　選手の傷病状況は、出発前の時点でプレーできないような重症者はおらず、前述のように直前合宿での疲労からコンディションを落とす選手が若干名いましたが、治療により選手全員がプレー可能な状態で開幕戦に臨むことができました。

　遠征中に発生した傷害としては、打撲や軽い捻挫など軽微なものが多かったですが、予選リーグ最終戦（5 試合目）のノルウェー戦でセンタープレーヤーがシュート後に右手（利き手）を床に突き、右手首を負傷、腫脹と痛みが続き、舟状骨骨折が疑われましたので、登録を外すこととなりました。それ以外のメンバーでは２名が試合前に局所麻酔（0.5% マーカイン）を注射、８名程度がボルタレン等を内服して出場しました。痛みが全くなかった訳ではないと思いますが、世界を相手に十分なパフォーマンスを発揮してくれました。これには練習、試合前にはテーピングを、試合後は深夜まで鍼治療やマッサージ等のケアを行って下さった寺尾トレーナーの献身的なご尽力のお陰であることは言うまでもありません。この場をお借りしてお礼を申し上げま

す。

また、予選リーグ4試合目の対ポーランド戦終了後にDoping controlが行われました。CP2名が抽出され、両名とも国際大会でのDoping controlは初体験でしたが、国内では何度も経験済みのため特に問題なく検査を終了しました。選手の抽出方法、検査の方法自体は通常と異なる点は特にありませんでした。Presitdent' s Cupではは Doping controlは行われませんでした。

試合の結果としては24ヵ国中22位と残念な結果でありましたが、選手達はオルテガ監督の下、優勝国フランス、準優勝ノルウェー、ロシア、ブラジルといった強豪国と堂々と戦ってくれました。力の差を痛感するとともに、世界のトップがかけ離れた存在でないことも実感した筈です。現時点での日本チームのスキルがどこまで通用し、何が足りないのか、世界の基準がどのくらい高いレベルにあるのかを経験することができたことが何よりの収穫だったと思います。男子の世界選手権出場は6年振りであり、1997年の熊本大会以降の20年間で10回中3回しか出場していません。東京五輪はもちろん、その先に続く日本ハンドボールの発展、強化のためには2年に1度のこの大会に継続的に出場していくことが必要不可欠と思われます。そのためには我々メディカルスタッフは、選手が安心してコンディショニングや傷病治療が行えるよう、合宿、大会時のサポートだけでなく、普段から選手を診ている所属チームのチームドクター、チームトレーナーやかかりつけ医師等とも連携し、365日切れ目のない継続したメディカルサポートを行うことが必要であると思います。

最後になりましたが、オルテガ監督をはじめ、チームをサポートしていただいた日本協会の皆様、所属チームの関係者、そして蒲生団長、コーチのローランドさん、北林さん、吉村さん、総務の田中茂さん、分析班の市村さん 、永野さん、トレーナーの寺尾さんに感謝を申し上げて私の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

サイドレポート

● France 2017 All-star Team

MVP：Nikola KARABATIC（FRA）
左ウイング：Jerry TOLLBRING（SWE）
左センター：サンダー・サゴセン（NOR）
センターバック：Domagoj DUVNJAK（CRO）
右センター：Nedim REMILI（FRA）
右ウイング：Kristian BJORNSEN（NOR）
ポスト：Bjarte MYRHOL（NOR）
ゴールキーパー：ヴィンセント・ジェラルド（FRA）
得点王：Kiril LAZAROV（MKD）50ゴール

●ノルウェーを破りフランスが大会連覇、6度目の優勝

ノルウェーとの決勝では前半25分には3点差を付けられるが、終盤の3連続得点などで勝ち越して後半へ。45分には3点差まで詰められるが、4連続得点などで引き離し危なげなく6度目の優勝を飾る。互いのキーパーの好守が目立ちフランスGKの阻止率は33%、ノルウェーは34%であったが、フランスの速攻が試合を有利



に導いた。

決勝：フランス　33―26　ノルウェー

●スロベニア、初の世界選手権メダル獲得

銅メダルをかけたクロアチアとの対戦、スロベニアの得点で動き出した試合は前半クロアチアの3連続得点2回で5点差をつけて後半へ。40分には試合最大の8点差を付けられる。ここから、5連続得点で58分には同点に持ち込む。直ぐにクロアチアに逆転されるも連続得点で大逆転をして世界選手権初のメダルを獲得した。スロベニアは、FP12名が得点を挙げる全員攻撃を見せ、得点率も67%と59%のクロアチアを圧倒した。

銅メダル：スロベニア　3―30　クロアチア



●参加24チームの最終数値を見ると…

1．フィールドプレイヤーの得点率

全得点4643／全シュート数7852、得点率59%。日本は、全得点186／全シュート数338、得点率55%。トップ3のチームでは、全得点827／全シュート数1286、得点率64%。

日本がトップ3のレベルになるには、後、30点多く得点しなくてはならない。

2．ゴールキーパーのセーブ率（阻止率）

全セーブしたシュート数1976／全被シュート数6619…セーブ率30%。日本は、全セーブしたシュート数66／全被シュート数288…セーブ率23%。トップ3のチームでは、全セーブしたシュート数352／全被シュート数1057…セーブ率33%。

日本がトップ3のレベルになるには、後、29のシュートをセーブしなくてはならない。

3．フェアプレーランキング

試合毎に、イエローカード1点、2分間退場2点、レッドカード5点として積算した結果、日本は全24チームの中で、7試合を通じてイエローカード16枚、2分間退場12回の合計40点、1試合平均5.7点であり1位となった。因みに、最下位はバーレーンであり7試合を通じてイエローカード18枚、2分間退場35回、レッドカード1回の合計93点、1試合平均では13.3点であった。優勝のフランスが8.8点、ノルウェーが10.6点、スロベニアが9.8点となっている。

4．得点ランキング

LAZAROV Kinil（MKD）が50点（得点率62%）でトップ、日本選手は22位に徳田が32点（得点率55%）、37位に東江が27点（得点率66%）、66位に信太が23点（得点率47%）が100位以内にランクされた。

5．アシストランキング

SAGOSEN Sander（NOR）が43回でトップ、日本選手は20位に信太が21回、41位に徳田が14回、54位に高智、銘苅が12回、61位に植垣が11回、90位に東江が9回が100位以内にランクされた。

第25回男子世界選手権レポート

フランス人の、フランス人による、フランス人のための世界選手権

芳村優太

フランス、モンペリエでハンドボールコーチ留学をしている芳村優太です。世界トップレベルのコーチングを学ぶため、また、フランスの育成の秘密に迫るため、Montpellier Handball の門を叩きました。モンペリエ出身のフランス代表選手は、世界ナンバーワンプレーヤーといわれ、今回も大会MVPに選ばれたニコラ・カラバティッチ、世界選手権で大活躍した若干20歳のルドヴィック・ファブレガスなどが挙げられます。そして、第25回世界選手権がフランス開催だったことも、モンペリエを選択した理由の一つです。今回は、私が実際に肌で感じたフランス世界選手権について報告していきます。

まず初めにお伝えしたいことは、フランスでのハンドボールの在り方です。簡単に言うと、フランス人はナショナルチームが世界トップレベルであることは知っていますが、テレビを点けても普段ハンドボールは放送していません。見られるとしても、世界レベルの大会の準決勝、決勝のみです。ドイツ、デンマークは、テレビを点ければ試合が観られるというのはよく聞きますが、フランスはそうではありません。試合を見たければ、会場に直接行く、もしくは有料スポーツチャンネルに登録するしか方法がないというのがフランスのハンドボール文化です。

今大会は、フランスにとって、6個目の星を勝ち取るというのが最大の目標でした。そのため、自国開催という大きなアドバンテージを活かすため、いかに会場をフランスカラーで埋め尽くすのかが一つの鍵となりました。日頃ハンドボールに触れることのない、眠っている顧客を呼び覚ますために、彼らはSNSによる宣伝はもちろん、実際に汗をかいて大規模な大会告知をしてきました。

2016年4月から10月まで半年かけて大会告知のため国中を駆け巡るイベントが開催されました。コルシカ島のアジャクシオをスタートし、ニース、エクサンプロバンス、アルビ、ボルドー、ニオール、リモジェス、クレルモン・フェラン、ブールカン・ブレス、モンベリアール、セレスタ、ブールジュ、アミアン、セリ、トロア、シュノーヴ、ブレスト、ナント、ルーアン、パリ、リール、メッス、アルベールビル、モンペリエ、というようにフランス中での大告告知です。モンペリエでは、最も多くの人が行き交うプラス・ド・コメディーという大広場で行われました。巨大バルーンで出来たハンドボールコートを広場の中心に置き、その周りにアーケードゲームのようなスペースをいくつも設置し、大人も子供も楽しめ、触れ合える場が作り出されていました（写真①）。そしてミニゲームの参加者には、大会グッズが無料配布されていました。イベントの様子は、YouTubeの大会公式アカウントから見ることができます。興味ある方は、以下のURLからご覧下さい（https://www.youtube.com/watch?v=uGpXHUeVe1c）。



写真①　モンペリエでのイベント

大会通算観客数約54万人、そのうち8%が外国人。つまり、観客の約90%がフランス人であったことが、この告知の成功を裏付けていると言えます。

しかし、ただフランス人を集客するだけでは、そのアドバンテージを最大限に活かすことはできません。そのため、青・白・赤の3色でできた応援用のビニール製の棒が毎試合配られていました。会場はトリコロールカラーで染め上げられ、フランスのホーム感が溢れていました。決勝戦に至っては、トリコロールカラーの王冠のような被り物まで無料配布されており、ホームアドバンテージへの徹底度が感じられました（写真②）。



写真②　フランス対ノルウェーの決勝戦

また、フランス人だけでなく、全ての国のファンが楽しめるイベントも多く用意されてありました。ナント会場では、飲食コーナー、無料フェイスペイント、ハンドボールコート、ミュージックコンサート、フランス代表の過去のユニホームやポスターが飾ってあるメモリアルコーナー（写真③）など、多くの娯楽が揃うvillageというアリーナが、試合用アリーナとは別に用意されていました。ワインを飲めば、フランスの文化を肌で感じることができますし、メモリアルコーナーに行けば、フランス代表


写真③　ナント会場のメモリアルコーナー

の歴史に触れることができます。フランス生まれのガレットやクレープも、現地での食べ方で味わうことができました。試合毎に、清掃や次の試合の準備のため一度アリーナを出なければならなかったのですが、このセカンドアリーナのおかげで、楽しみながら時間を過ごすことができたのではないでしょうか。パリ会場の場合は、アリーナから少し離れた場所にあるBercy Villageというショッピングモールを世界選手権仕様に飾り、試合前後にファン同士の交流を深める場が提供されていました（写真④）。


写真④　夜になるとファンで賑わうBercy village

ハーフタイムには、フェノメナルダンスというイベントもありました。観客全員で大会公式ソングに合せてダンスをし、最も上手に踊れた方に、トロフィーが贈られるというものです。このダンスにより、踊っている人はもちろん、見ているだけの人も含め、観客全員がハーフタイムまで楽しめたことは間違いないと思います。

そして、安全を確保するため、セキュリティー面も整っていました。どの会場でも警察はもちろん、ライフルを持ったフランス軍や、警察犬が導入されていました。入場するまで、チケットチェック、荷物チェック、身体チェックの３段階となっており、日本ではなかなか体験することができないセキュリティーチェックでした（写真⑤）。


写真⑤　セキュリティー対策

このようにして、今大会では、フランスのホーム感を全面に押し出しながら、外国から来たファンをもてなすことに成功しました。

ここで、現地でしかわからない世界選手権の裏側も紹介したいと思います。大会期間中、代表選手が抜けたモンペリエは、残された選手のコンディション維持のため、元フランス代表、ジェローム・フェルナンデス率いるエクサンプロバンス、ルーマニアのブカレストなどのチームと約20日間で６試合のトレーニングマッチをこなしました。そしてこの試合は、18歳、19歳の選手が混じり、プロ選手と試合をしながら経験を積むという育成的な側面も兼ねていました。世界選手権後、怪我で抜けたプロ選手の穴を埋めるため、下部組織から引き上げられた若手がスムーズにプロチームに溶け込むことができたのは、このトレーニングマッチの賜物と言えるのではないでしょうか。また、下部組織の選手が、実際に世界選手権の試合を観戦に行きました。試合観戦よりも練習、という風潮が強い日本では、なかなか見られない光景だと思います。将来、自分たちがプレーする環境を肌で感じておくことは、育成面においても重要と言えるのではないでしょうか。

日頃テレビ放送がない国で世界大会をどのように開催するのかという側面から考えると、2019年女子世界選手権、2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向けて、このフランス世界選手権は参考になることが多かったと思います。フランス対ノルウェーの決勝戦は国内でも放送され、平均で870万人、最高1230万人が観戦していたことは事実であり、世界ナンバーワンが取れるだけの実力があると、これだけの人の関心が集まるということもわかります。ここから日本代表の競技力の向上が必須であることは間違いないと言えるでしょう。しかし、たとえそこまでの実力がフランス代表になかったとしても、大会は成功していたと思います。それだけの運営力がこの大会にはありました。ここには書ききれないほどです。日本が表彰台に上がるためには、競技力向上だけではなし得ません。ダグルジャパンの力に加え、会場を日の丸で埋め尽くす運営力が数年後に試されることとなるでしょう。

【参考】
http://www.francehandball2017.com/fr/tous-les-chiffres-du-championnat-du-monde-31102
http://www.montpellierhandball.com/fr/principale-70/actualite/matchs_amicaux_de_janvier_point_rencontres-2611

男子日本代表
ダグル・シグルドソン新監督
就任記者会見





男子日本代表の新監督に就任したダグル・シグルドソン氏（43）は、2月13日岸記念体育館内にて就任会見を行った。渡辺会長、多田副会長、蒲生副会長兼専務理事、田口強化本部長が同席、家永日本リーグGMの司会で始まった。

多くの記者が集まった中、渡辺会長の挨拶と蒲生副会長から就任までの経緯が説明された後、シグルドソン新監督の挨拶となった。冒頭で､「初めまして､ダグルです」と不慣れな日本語で始まった。

シグルドソン新監督は日本は世界と体力面で差があると、体力面の強化に重点を置く考えで、体力を高め、スピードを生かし、プレッシャーが掛かる試合で闘争心を出せるようにしたいと意気込みを語った。また、以前に発覚した所謂「喫煙問題」について記者からの質問に対して、「厳しくやる。現状に留まり、向上したいという気持ちがない人は代表に来なくてよい」と厳しい口調で応えた。更には、守備から速攻へと素早く切り替えるモダンなゲーム展開を目指すとした。

東京オリンピックまでの行動については「ステップ・バイ・ステップで臨む」と具体的には語らなかったが、目標値しては、「アジアでの上位3位入り、そして欧州を除く4大陸での上位5位入りを目指す」とし、厳しくタフな道のりであることは十分承知しているとした。

今後、日本協会では強化方針などを詰め、2020年までの計画を策定するが、来る4月の合宿には新たな代表候補メンバーとスタッフ陣を整え、7月に開催が予定されている欧州の強豪クラブであるドイツ（THWキール）との試合から指揮を執る。


GEL-BLAST® 7
多方向への強い切返し動作をサポート
軽量性・クッション性・安定性。さらなる優れた機能バランスを備え、
クイックな動作に対応する、スタビリティトップモデル。
2301
4301
GEL-BLAST® 7 NEW
THH543 本体価格 ¥12,800＋税
2301 ／レッド×ホワイト　4301 ／ブルージュエル×ホワイト
サイズ：23.0～30.0cm
7月中旬発売予定
WANT IT MORE
asics

全日本社会人 ハンドボール チャレンジ 2017

開催期日：平成29年 2月10日（金）～12日（日）
会場：和歌山ビッグホエール

最終順位

【男子】

優勝：HC 和歌山

２位：八光自動車工業㈱
３位：EHC
４位：トヨタ自動車
５位：日新製鋼、高知クラブ
７位：金沢市役所ハンドボール部、新日鐵住金名古屋
９位：ブラザー工業、栃の葉クラブ
11位：豊田自動織機、日本ゼオン
13位：大阪ガス、警視庁北の丸クラブ
15位：同朋クラブ、マツダ

【女子】

優勝：HC 和歌山

２位：HC 福井
３位：愛媛選抜

試合結果

【男子】

▼１回戦

トヨタ自動車	32（18－10、14－５）15	マツダ
金沢市役所	22（11－５、11－８）13	大阪ガス
日新製鋼	21（８－11、13－９）20	ブラザー工業
HC和歌山	38（19－５、19－６）11	同朋クラブ
八光自動車	33（15－18、18－８）26	豊田自動織機
高知クラブ	24（11－13、13－９）22	警視庁クラブ
新日鐵名古屋	23（11－10、12－12）22	栃の葉クラブ
EHC	48（23－２、25－８）10	日本ゼオン

▼準々決勝

トヨタ自動車	21（10－８、11－８）16	金沢市役所
HC和歌山	29（12－９、17－10）19	日新製鋼
八光自動車	36（14－６、22－３）９	高知クラブ
EHC	28（10－７、18－９）16	新日鐵名古屋

▼準決勝

HC和歌山	16（10－７、６－８）15	トヨタ自動車
八光自動車	19（８－９、11－８）17	EHC

▼３位決定戦

EHC	19（10－10、９－７）17	トヨタ自動車

▼決勝

HC和歌山	19（10－10、９－７）17	八光自動車

【女子】

HC和歌山	26（11－８、15－９）17	HC福井
HC福井	22（11－６、11－15）21	愛媛選抜
HC和歌山	24（11－８、13－11）19	愛媛選抜
HC福井	16（８－６、８－10）16	愛媛選抜
HC和歌山	21（10－９、11－７）16	愛媛選抜
HC和歌山	18（11－７、７－11）18	HC福井

男子優勝　ＨＣ和歌山



HC 和歌山監督　古家 雅之

まず始めに、本大会に御協力、御支援いただきました関係団体、関係各社、大会運営をいただきました皆様に御礼を申し上げます。昨年度の和歌山国体に続き、またこの和歌山の地で全国規模の大会が開催されたことは、和歌山県のハンドボールチームの一員として大変うれしく思います。

大会を振り返ってみると、地元和歌山開催ということもあり、初戦・二回戦はフィジカル面でもメンタル面でも、非常に良いコンディションの中で試合をすることができました。しかし、打って変わって準決勝・決勝はとても厳しい戦いでした。トヨタ自動車と八光自動車の堅守に阻まれ、なかなか得点することができない苦しい展開が続きましたが、HC 和歌山の持ち味である堅守からの速攻に徹することで、かろうじて勝利することができました。

主力選手の負傷、離脱等さまざまな逆境に立たされていましたが、持ち前のチームワークで今大会も良い結果を得ることができました。今後もこの結果に満足せず、チームの現状を改善し、和歌山県のハンドボール界により良い影響が与えられるよう、さらに精進していきたいと思います。

最後になりましたが、これまで HC 和歌山の活動に御支援、御声援いただいた皆様、HC 和歌山に関わってくださった皆様に、深く感謝と御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

女子優勝　ＨＣ和歌山



HC 和歌山　吉田　薫

はじめに、全日本社会人ハンドボールチャレンジ 2017 を開催するにあたりご尽力頂いた地元和歌山県ハンドボール協会、（公財）日本ハンドボール協会、ならびに各関係各位の皆様に改めて心より厚く感謝、お礼申し上げます。

私たち HC 和歌山は、27 年度和歌山県で開催された国民体育大会で発足されたチームです。国民体育大会が終わった今でも和歌山県ハンドボール普及の為、また一つでも多く全国大会に出場する為に頑張っております。

チャレンジカップにおいて優勝をすることができましたのも、一重に和歌山県で国民体育大会を開催して２年経つ今でも変わらぬご支援、ご声援を頂いたからこそ得た優勝だと感じております。

今大会は国民体育大会を控えている愛媛県、福井県とのリーグ戦でした。他のチームも１日目よりも２日目と戦術を変えて挑んできました。両日とも接戦となりましたが、小川・中村が中心となりチームをまとめ、他のメンバーも役割をしっかりと果たしてくれました。「粘り守り、速攻」をチームカラーとして相手のミスを誘い速攻する事ができました。我がチームもミスが多く、課題が多く残る大会となりましたが、若手の選手も含め全選手がコートに立ち、それぞれ自分の力を発揮し、優勝に貢献してくれました。

これからも和歌山県のハンドボール発展の為、また日本全国のハンドボーラーと対戦できるように、全国大会出場を目指し、チーム和歌山として頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。

平成29年度 事業計画

公益財団法人 日本ハンドボール協会

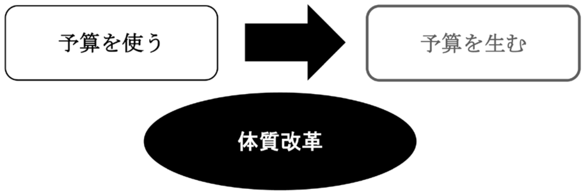
世界でメダルを取る　アジアの盟主となる

基本的な運営方針

1．背景

男子は 1988 年ソウルオリンピック、女子は 1976 年モントリオール以来オリンピック出場を果たしていない。2016 年リオデジャネイロオリンピックの出場権も逃した。

2019 熊本女子世界選手権・2020 年東京オリンピックで男女ともメダルを目指すため、ハンドボール協会の抜本的改革を目指す。



2．基本方針

1）2019 女子世界選手権、2020 オリンピックの強化　メダルにチャレンジ
2）日本協会の改革　　事業執行の透明化と確実な決済
3）将来構想　　　　　2020 以降の自立運営レガシー確立

1．競技力向上（強化）に関する事業

《強化》

【基本方針】

2019 年女子世界選手権・2020 年東京オリンピックに向け、世界基準のフィジカル強化・戦術の習得・技術の習得・メンタルの強化・人間力の強化などをその図り、強化の恒久的なシステムの構築を推進する。

また､システムを充実させるための強化スタッフの育成に努める。（国際レベルの指導者育成を図る。）

【実行計画】

〈男子代表〉
1）強化合宿
2）欧州遠征 A（8 月）、欧州遠征 B（1 月）
3）日韓定期戦（7 月）
4）国際強化試合（キール招待 7 月他）
5）アジア選手権（1/20 ～ 31）

〈女子代表〉
1）強化合宿
2）欧州遠征 A（6 月）、欧州遠征 B（8 月）、欧州遠征 C（1 月）
3）日韓定期戦（7 月）
4）国際強化試合（JSC 女子支援他）
5）ポーランド招聘
6）世界選手権（12/1 ～ 17）

〈男子アンダーカテゴリー〉
1）強化合宿
2）U-22 東アジア選手権（6/26 ～ 30）
3）ユース国際（6/24 ～ 7/3）
4）ユース世界選手権（8/7 ～ 20）
5）U-16 日韓交流

〈女子アンダーカテゴリー〉
1）強化合宿
2）U-22 東アジア選手権（6/26 ～ 30）
3）ジュニアアジア選手権（7/15 ～ 22）
4）ユースアジア選手権（8/19 ～ 27）
5）U-16 日韓交流

《強化支援グループ》

【基本方針】

2019 年女子世界選手権・2020 年東京オリンピックに向けた代表強化をサポートし、それらを各委員会を通じてアンダーカテゴリー代表のサポートに活かされるように推進する。

【実行計画】

1）　強化企画運営チーム
　　強化企画運営チーム会議（合宿、国際試合等の企画、6 回 / 年）
2）　環境企画運営チーム
　　環境企画運営チーム会議（味の素 V プロジェクト、ONE TAP クラウドデータサービス構築、フィジカルテストの統一化とデータベース化等、6 回 / 年）
3）　広報・マーケティングチーム
　　広報・マーケティングチーム会議（広報戦略、スポンサー戦略、6 回 / 年）

《情報科学専門委員会》

【基本方針】

1）　分析サポートについて
　（1）ナショナルチームが活用するための情報（日本ナショナルチームおよび各国の分析）を提供する。
　（2）ナショナルチームの活動における継続的な分析や情報を蓄積するとともに、ナショナルチームの客観的な評価（人的および活動の方向性）の材料とする。
　（3）調査研究（特殊分析）を実施し、選手へのフィードバックによる個人戦術向上および強化指針の作成に活用する。
2）　体力サポートについて

（1）ナショナルチームのオリンピック出場、メダル獲得を実現するための「ハンドボール選手の体力ガイドライン作成」を主眼とする。

（2）日本代表選手における体力を測定評価し、その現状を把握するとともに世界各国の選手との比較を行うことにより（1）の実現を図る。

（3）各世代のハンドボール選手の体力を測定評価し、各世代別の体力基準値を作成する。
その基準値をもとに体力トレーニング目標を設定するための体力ガイドラインを作成する。

【実行計画】

1） 男女シニア代表合同合宿帯同
2） NTS およびトレーナー部会との体力関連打合せ（5 月）
3） アンダーカテゴリー合宿および大会帯同（6 月～ 9 月）
4） ヒロシマ国際でのアナリスト養成研修会（7 月）
5） 分析ソフトウェア年間ライセンス購入（12 月）
6） 情報科学委員会会議（3 月）
7） NTC_TR 内での映像アーカイブ用 Mac と HDD 購入（5 月）

《医事専門委員会》

【基本方針】

1） NA チームのメディカルサポート
（1）合宿時のメディカルチェック
（2）JS-CPS（ジャパン・スポーツ・サイバー・システム）活用会議
2） アンチ・ドーピング及び食育の啓蒙活動
（1）各カテゴリー事前合宿時
（2）全国大会各会場
3） 医事委員会
（1）6 月トレーナー部会開催時
（2）2 月または 3 月ハンドボール学会開催時
4） 全国ハンドボール活動における安全管理
（1）医事委員会ホームページリニューアル
（2）医事委員会ブロック会議および委員会

【実行計画】

1） 代表チームのメディカルサポート（合宿時）
2） 代表チームのメディカルサポート（JS-CPS 活用会議）
3） アンチ・ドーピング及び食育の啓蒙活動
（1）各カテゴリー事前合宿時及び大学生以下の代表選手を持つ保護者への栄養教育
（2）全国大会各会場及び出場選手へのアンケート調査
4） 医事委員会会議開催（6 月、2or3 月）
5） 医事委員会ホームページのリニューアル
6） 医事委員会ブロック会議及び委員会（6 月、2or3 月）

《強化部会》

【基本方針】

1） 世界及びアジアのハンドボールを常に検証しながら、段階的にフル代表チームで活躍できる選手の強化を図る。
2） 強化を図る過程において得た世界及びアジアのハンドボールの情報をタイムリーに発信できるように努める。

【実行計画】

1） 男子アンダー代表強化部会議（3 回 / 年）
2） 男子アンダー代表強化部長現場視察（9 回 / 年）
3） 女子アンダー代表強化部会議（3 回 / 年）
4） 女子アンダー代表強化部長現場視察（6 回 / 年）

《強化・育成戦略委員会》

【基本方針】

強化・指導・普及・NTS・ジュニアアカデミー（以下 NTA）・審判等からの情報を共有し、日本ハンドボールのレベルアップを図るための強化・育成の指針を提示する。

【今年度の目的】

1） 強化・育成戦略委員会は、日本ハンドボールのレベルアップを図るために、これからの強化・育成に関する情報や方向性を共有し、強化・育成の指針を提示することを目的とする。
2） 本会議の構成員を、議長（専務理事）、総括、強化本部長（強化担当）、普及指導本部長（育成担当）、強化委員長、情報科学委員長、NTS 委員長、NTA 委員長、指導部長、普及部長、育成部長、競技本部長、審判部長とし、必要に応じてアドバイザーや実務担当者を招聘する。
3） 本会議に作業部会を設置する。現在は､すでに進行している｢テクニカルチーム｣｢日程調整ワーキンググループ」があり、必要に応じて追加編成する。
4） 平成 29 年度提案の強化・育成指針の進捗状況（達成度）をチェックする。
5） 四半期ごとにチェック、および進度に応じた修正を行う。
6） 具体的な実施内容は以下の通りとする。
強化：各カテゴリーの国際大会の評価（stats 分析と戦い方）と強化指針との整合性をチェックする。
指導・普及・育成：各カテゴリーの国際大会の評価（技術・戦術の質的分析）と育成指針との整合性をチェックする。また、国内での指導指針の実施度をチェックする。
NTS：指導内容策定とその実施度をチェックする。
NTA：指導内容策定とその実施度をチェックする。
競技：国内大会の日程調整や大会開催、用具等に関するチェックを行う。
審判：指導指針に即した審判評価を行う。
7） 平成 30 年度に向けた強化・育成指針の検討と作成を行う。

【実行計画】

1） 委員会の開催（4 回 / 年）

2） 作業部会の開催（4 回 / 年）
3） 育成・強化指針冊子の作成

《トレーナー部会》

【基本方針】

ハンドボール競技の発展と強化のための身体づくり、傷害予防、競技力向上サポート体制の構築ならびに全国のトレーナー連携、情報共有による知識・技術の向上

【実行計画】

1） トレーナーブロック会議（6 月）
2） トレーナー部会総会（6 月）

2. 発掘・育成事業

《ナショナルトレーニングシステム（NTS）》

【基本方針】

〈選手の早期発掘・早期育成〉〈優秀指導者養成〉〈一貫指導システム〉を柱として、将来に渡るハンドボール選手の個人技能・能力のレベルアップを図り、世界に通じる選手としてのスキル教育と人間力を育成するとともに、優秀指導者の指導力研鑽を同時に行う。

【今年度の目標】

今年度より、センタートレーニングにおいて、従来の学校カテゴリーからアンダーカテゴリーに変更して招集することによって、高校 1 年生・中学 1 年生に光を当てるとともに、学校カテゴリーを越えた指導者相互の交流・研鑽による指導力向上を目指す。

【実行計画】

1） NTS 運営委員会（4 月、11 月）
2） NTS ブロックシミュレーション（5 月、11 月）
3） NTS ブロックトレーニング［ブロック委託事業］（8 月～ 9 月）
4） NTS 検討委員会（8 月）
5） NTS 内容策定委員会（4、10、2 月）
6） NTS センタートレーニング（1 月）

《ナショナルトレーニングアカデミー（NTA）》

【基本方針】

NTS によって選抜された優秀な選手を対象に、専門的で高度な個人技能・能力の育成を図る。日本はもとより海外においても活躍できるような国際感覚や教養を身につける。

加えて、NTS 選考選手以外から特化プログラム（長身選手、左利き、GK など）を組み、特殊な能力・ポジションを有する人材の発掘育成も実施する。

更に、選手・指導者の中央への招集に留まらず、地方へ指導者を派遣することによって、多くの指導者並びに保護者に対して、技術や体力・栄養に関する最新知識を伝達する。（ナショナルトレーニングキャラバン）

【今年度の目標】

NTS と連動することにより、選手選考を有機的に機能させるとともに、全国各地からの優秀指導者によるアカデミー指導スタッフを形成し、指導者研鑽も同時に目指す。新規事業であるナショナルトレーニングキャラバンを軌道に乗せる。

【実行計画】

1） ナショナルトレーニングアカデミー（4、6、8、2 月）
2） ナショナルトレーニングアカデミー（特化プログラム、3 回 / 年）
3） ナショナルトレーニングキャラバン（9、11、2 月）
4） 大会視察等

3. 指導・普及に関する事業

《指導委員会》

日体協の指導者制度改定（平成 30 年度予定）と連動して、ハンドボール協会としての指導者養成システムの構築を目指す。そのために、国内外からの情報収集を積極的に行い、分析した知見や講習会の内容を蓄積していく。

①その内容を精査して指導者講習会に活用していくとともに、公認コーチ養成講習会におけるカリキュラム及び講義内容の精査を行う。

②各都道府県およびブロックにおける指導者養成の意識を高め、指導者講習会が計画的に実施されるよう促すとともに、連絡網を整備し、組織強化を狙う。

③指導者が身につけておくべき知識をまとめたハンドボール指導教本の作成を最重要課題とする。

【今年度の目標】

公認指導者の養成 30 名純増。指導者研修会による指導者研鑽 150 名。

地方活性化に向けて全国組織の整備強化。指導教本改訂版発刊におけるコンテンツ作成。

【実行計画】

1） 日体協公認コーチ養成講習会［日体協委託事業］（6 月）
2） コーチレフェリーシンポジウム（12 月）
3） 指導委員会中央会議（12 月）
4） EHF マスターコーチコース（1 月）
5） 日体協公認指導者資格〈免除適応コース〉検定試験（2 月）
6） 競技別指導者養成講習会［日体協委託事業］（2 月）
7） トップコーチセミナー（2 月）
8） 指導委員会全国研修会（2 月）
9） 指導教本プロジェクト（5、12、2 月）

《育成委員会》

【基本方針】

小・中学生におけるハンドボール環境をより一層充実させるために、一貫指導システム等の更なる拡充・発展を目指すとともに、2020 年以降の日本ハンドボール界を見据えた選手育成方策について、具体的な事業展開を施行していく。

【実行計画】
1） 小学生専門委員会（5、8、10、2 月）
2） 一貫指導伝達講習会（8 月）
3） 全国 U-12 指導者研修会（10 月）
4） 日韓小学生親善交流事業（8 月）
5） ブロック普及推進会議［大崎財団助成事業］（9 回 / 年）
6） ブロック小学生大会助成事業（9 ブロック）
7） 中学生専門委員会（8、12、3 月）
8） U-15 ブロック大会助成事業（9 ブロック）

《普及委員会》

【基本方針】
東京オリンピック以降のハンドボール文化構築を見据えたハンドボール普及活動に取り組む。
①学校授業におけるハンドボール指導の実践研究に取り組む。
②ハンドボールを生涯スポーツとして取り組む環境を整備する。
③日本代表レベル選手のキャリア育成の仕方について現状課題を把握するとともに、女子チーム指導者が女性アスリートの心身の特性について理解を深める。
④ビーチハンドボールおよび車椅子ハンドボールの組織強化・拡充および普及発展の具体的方策を探る。

【今年度の目的】
ビーチハンドボールに関する取り組みおよび組織について、具体的な議論を開始する。

【実行計画】
1） ハンドボール研修集会（学校体育、8 月）
2） 授業実践校研究委託（学校体育、6 校）
3） 学校体育専門委員会（学校体育、4 月、8 月、12 月）
4） マスターズ専門委員会（マスターズ、4 月、3 月）
5） 被災地支援事業（キャリアサポート、8 月）
6） ビーチ専門委員会（ビーチ、8 月）

4. 競技運営に関する事業

【基本方針】
1） 競技運営の充実のための規格統一
2） 競技役員の資質向上をはかる講習会を開催する
3） 競技運営の発展のための意見交換
4） 登録業務の推進を図る

【今年度の目的】
1） マニュアルの作成
2） 講習会の開催
3） 意見交換会の開催
4） 登録業務

【実行計画】
1） 大会視察および指導
2） 講習会
3） 競技運営連絡協議会（1 月）
4） 検定業者懇談会（3 月）
5） 国際大会スタッフ養成研修（12 月 or1 月）

5. 競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】
1） 組織の改編・改善と指導体系の強化
2） レフェリーの発掘と効果的な育成（ビーチ競技を含む）
3） 競技規則と適切な競技運営の徹底
4） 国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
5） 2019 年・2020 年、更にその後を見据えたレフェリーの育成

【実行計画】
1） 審判部会（4or5 月、10 月、1 月）
2） 競技規則研究委員会（4、12 月）
3） 審判指導に関する委員会（競技規則研究委員会と併催、4 月）
4） 審査指導委員会、ブロック審判長合同会議（5 月）
5） A/B 級公認審判員審査会（6 ～ 7 月）
6） 全日本大会担当レフェリー研修会（6 月）
7） レフェリーアカデミー事業（5 回 / 年）
8） JHA レフェリーコース（5 ～ 9 月、3 月）
9） トップレフェリー研修会（日本選手権時、12 月）
10）審判部合同会議（1 月）
11）コーチレフェリーシンポジウム講師派遣（3 月）
12）レフェリー通信システム購入
13）有望レフェリー海外派遣

6. 総務に関する事業

【基本方針】
1） 改革から変革につなげるべく、組織の活性化を推進する。
2） 懸案事項である諸規定、規約を見直し、ガバナンス・コプライアンス体制の充実を目指す。
3） 適正かつ円滑な事業執行と事業進捗を図ると共に業務の効率化に努める。

【実行計画】
1） 総務委員会の開催

7. 広報に関する事業

《広報事業》

【基本方針】
1） ハンドボールの注目度アップに繋がる発信型の広報を目指す。
2） 代表活動、協会事業、海外情報等の充実を図り、魅力的な広報を目指す。
3） マスコミとの交流を充実させ、ハンドボールの魅力を訴えて行

く。
4） インターネット情報の充実・拡大を図る。
【実行計画】
1） 広報委員会
2） マスコミ交流（1回 / 月）
《機関誌発行》
【基本方針】
1） 日本協会HP化でのPDFによる機関誌へと変わる事で、従来は組織内の配布に留まっていた機関誌が、ネットを通じて一般のファンや組織外の方からの参照へと一気に拡大する。
そのために、読みやすさや、写真を多用した見栄え等にも配慮し、毎月定例の発信を検討する。
2） 一般のファン・競技者と直接に繋がる媒体として掲載内容の充実を図り、ファンの拡大や競技者の更なる強化に結びつく触媒機能を果たせるように努める。
【実行計画】
1） 機関誌編集会議の開催（版下作成委託含む、12回 / 年）
2） 座談会等企画記事
《インターネット》
【基本方針】
1） ビジュアルを多用すると共に情報提供の充実を目指す。
2） コンテンツの充実を図る。
3） 新たな情報発信として「メールマガジン」の配信。
【実行計画】
1） インターネット委員会の開催

8. 財務・会計に関する事業

【基本方針】
1） 2019年、2020年に向け、諸事業の充実を図るためには費用の増加が予想される。
2） 諸事業の円滑な推進のため、協賛活動および支援活動による収益確保と各種補助金助成金の有効活用で収入確保を目指す。
3） 同時に事業内容をもう一度見直し、効率良い事業運営がなされているかどうかを確認しながら推進していく。
4） 更に2019年女子世界選手権開催の財源確保にも取り組んでいく。
【実行計画】
1） 財務委員会の開催

9. 国際に関する事業

【基本方針】
1） IHF（国際ハンドボール連盟）、AHF（アジアハンドボール連盟）、EAHF（東アジアハンドボール連盟）の一員として、メンバーシップを発揮し、国際貢献・国際交流の促進・発展に寄与する。
2） 各NF、地域エージェントとのコネクションを広げ、代表をはじめ、各カテゴリーの強化・育成が促進しやすい環境を整備・構築する。
3） 国際大会への派遣・受け入れに関する諸手続きを遅滞なく実施する。
4） 2019熊本女子WC、2020東京五輪開催に係る国際的活動に迅速に対応する。
【今年度の目的】
1） IHF・AHFからの書簡を翻訳し、関係部署へ連絡・報告する。
2） チーム派遣等に関する諸手続きなどを遂行する。
3） チーム受入れ等に関する諸手続きを遂行する。
4） レフリー、TDなど派遣手続きを遂行する。
5） 海外移籍等の実務支援を実施する。
6） IHF・AHFとの関係強化のために国際委員を大会派遣する。
7） 2019熊本女子WC開催に係る国際活動を支援する。
8） 2020東京五輪開催に係る国際活動を支援する。
9） 国際人養成プログラム受講者を検討し受講させる。
【実行計画】
1） IHF、AHF総会出席（11月）
2） 国際大会派遣（12月）
3） EAHF会議出席（4月）

10. 事業企画に関する事業

【基本方針】
1） 2019、2020に向けて、ハンドボール界全体の強化活動に沿った事業を展開する。
2） 2019、2020に向けた国内での代表露出を展開する。
【今年度の目的】
1） 日本協会主催大会の事業サポートを行う。
2） 男女日本代表チームによるイベント企画サポートを行う。
3） 国内大会スケジュール、内容見直し検討を行う。
【実行計画】
1） 事業企画委員会の開催（3回 / 年）

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】
2019年、2020年に向けて、ハンドボール界の保有しているすべての魅力を前面に出し、マーケティング活動推進に総力を挙げる。
【今年度の目的】
ハンドボールの魅力を可能な限り、アウトプットして協賛いただける企業などを足で稼ぐ。
【実行計画】
1） 新規協賛企業の開拓、拡大
(1) オフィシャルスポンサー（＋2社）、の開拓
(2) オフィシャルサプライヤー（＋2社）の確保と拡大
(3) ナショナルユニフォーム広告
(4) 機関誌、ホームページ広告（＋5社）
(5) 国内大会ごとの協賛会社獲得（プログラム、ボード他）と都道府県、連盟へのマーケティング活動の指導
(6) 物品販売
2）「広告代理店」「イベント会社」「グッズ企画販売会社」等との取り組みを推進
3） ファンドレージングの推進
4） オリジナルグッズ販売等
5） 各種イベントの企画（スポンサー感謝の集い他）

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】
1） 男女とも3回戦制とし、“強い日本ハンドボール” を目指す。
(1) 女子は、2019年世界選手権まであと2シーズンであることを意識し、代表活動を支援する
(2) 男子は、2020年オリンピックまであと3シーズンであることを意識し、代表活動を支援する
(3) 広報の充実を実現し各チームの集客戦略を確実に実行し、来場者数を増やす
2） リーグは、所属チームの集合体であり、各チームの発展がリーグの発展につながる
3） 企業チームとクラブチームの併存のあり方を見出す。（Jリーグとも、Bリーグとも異なるハンドボールリーグオリジナル）
【実行計画】

1） 大会運営
　（1）男子は、新たな3回戦制に伴う、より充実した大会運営を行う
　（2）女子は、新規2チームの参加により、リーグの価値を高める
2） 協会・リーグ合同で“強化ボード”を構成する
3） GM会ならびにリーグ委員会それぞれの機能・役割を充実させ、リーグの規律向上を図り、リーグの価値を高める
4） リーグ法人化の検討を具体的に実施する

13.『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】
1） 各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
2） 会員への情報、サービスの更なる拡充
3） 新会則へのスムーズな移行
【今年度の目的】
1） 会員数の5%増を目標に活動する。
2） 新制度へのスムーズな移行を推進する。
【実行計画】
1） 20万人会ニュースの発行と送付（7月）
2） 物品の製作（特典、封筒、チケット）
3） 会員への発送業務
4） 月次報告書の作成（12回/年）
5） 新規会員受付、問合せ対応
6） 会員過疎地域の調査、会員増への対策立案（8～9月）

14. 東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト

【基本方針】
　2020東京オリンピックの大会ビジョン「スポーツには世界と未来を変える力がある」と3つの基本コンセプト「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」をハンドボール競技にも確りと落とし込み、東京オリンピック組織委員会と協働で大会を運営する。
【今年度の目的】
1） スポーツマネージャーを東京五輪組織委員会に配置する。
2） 東京五輪組織委員会の推進計画にもとづき、プロジェクトを編成し実稼働に入る。
3） 大会運営組織案を立案、各担当マネージャーを選出し、IFの承認を得る。
4） 会場ブロックプランの策定に協力し、NFとして落ち度のない計画を立案する。
5） 競技ボランティア募集に関し目途をたてる（東京都ハンド協会、学連などとの調整）
6） オリンピックムーブメントなどの啓蒙活動を実施する。
【実行計画】
1） プロジェクト会議（5回/年）
2） プロモーション（VTR、キャンペーン企画・制作・実施等）

15. 2019女子世界選手権プロジェクト

【基本方針】
　熊本女子世界選手権大会の全国規模の協力体制の構築
【今年度の目的】
　大会開催にあたっては全国規模の協力体制が不可欠である。
　そのためには、国はもとより　全国知事、全国市長会や都道府県ハンドボール協会に対して、大会プロモーション、協力依頼を行う。
【実行計画】
1） 大会運営組織の作成（4月）
2） 熊本国際スポーツ大会の実行委員会とJHAとのタイアップ
3） JHAおよび国際スポーツ課　勉強会実施（6回/年）
4） 国際大会開催
5） 各種大会の視察、熊本大会PR

16. ガバナンスに関する事業

【基本方針】
　ガバナンス、コンプライアンスの再構築
【今年度の目的】
　コンプライアンスの骨子策定（コンプライアンス宣言策定）
【実行計画】
1） 委員会組織の再構築（4月）
2） ガバナンス、コンプライアンス宣言の策定と発信（8月）

17. アスリート委員会

【基本方針】
　アスリート委員会の新設
【今年度の目的】
　アスリートから見た競技環境の整備
　アスリートを取り巻く様々な案件（ドラッグ、賭博等）の抽出及びその対応
【実行計画】
1） メンバーの選考（4月）
2） 活動骨子立案（8月）

18. 女性アスリート支援に関する事業

【基本方針】
　女子の競技レベルを国際レベルに引き上げ、国際大会でのメダル獲得を狙う。
【今年度の目的】
1） 国内で国際大会を開催し、ターゲット世代の重点強化選手に対する実践機会を提供する。
2） 強化関係者、国内チーム指導者に対して、育成環境整備に向けた学びの場を設定する。
【実行計画】
1） 女性アスリート支援事業（国際大会開催）

19. 日本選手権に関する事業

【基本方針】
　従来、地方協会へ全面委託していた大会運営を、日本協会を主体とした実行委員会方式で開催することにより、2019年、2020年に向けて大会運営ノウハウの確立と体制構築を図る。
【今年度の目的】
　大阪を主体とした近畿ブロックで開催する。
【実行計画】
1） 日本選手権開催（近畿、12月）

20. 国際大会に関する事業

【基本方針】
　国際大会の開催により、2019年、2020年に向けて国際大会運営経験を積むとともに体制構築を図る。併せて、代表チームの強化と国内のムーヴメント向上を図る。
【今年度の目的】
1） ドイツ・THWキールを招聘し、JAPAN CUPを開催する。
2） 日韓定期戦を開催する。
【実行計画】
1） JAPAN CUP 2017キール国際招待（7月）
2） 日韓定期戦（7月）

平成29年（2017年）度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	備考（開催場所等）
4月	※第14回東アジアクラブ選手権（男・女）	4月16日㈰－4月19日㈬	中国・安徽省合肥市	
	※東アジア連盟総会	4月19日㈬	中国	
5月	※第6回アジアビーチハンドボール選手権	5月8日㈪－5月14日㈰	タイ	
	高松宮記念杯第7回全日本社会人選手権	5月17日㈬－5月21日㈰	福井県・福井市、永平寺町	福井県営体育館、北陸電力福井体育館フレア
6月	日体協公認コーチ養成講習会（専門科目）	6月23日㈮－6月26日㈪	東京都	
	※第5回U-22東アジア選手権（男・女）	6月26日㈪－7月2日㈰	岩手県・花巻市	
	※４ネイションズカップ	6月29日㈭－7月2日㈰	ドイツ・リューベック	男子ユース
7月	第37回全国クラブ選手権大会・西地区大会	7月1日㈯－7月2日㈰	徳島県・鳴門市、北島町	鳴門アミノバリューホール、北島北公園体育館
	西日本学生選手権大会	7月7日㈮－7月9日㈰	福岡県・福岡市	福岡市民体育館、福岡市南体育館、福岡市早良体育館
	※U-17ビーチハンドボール世界選手権	7月11日㈫－7月30日㈬	モーリシャス	
	※第14回女子ジュニアアジア選手権	7月15日㈯－7月22日㈯	香港	
	第37回全国クラブ選手権大会・東地区大会	7月15日㈯－7月16日㈰	秋田県・湯沢市	湯沢市総合体育館
	※JAPAN CUP 2017キール招待国際大会	7月17日㈪－7月22日㈯	愛知県豊田市、刈谷市、大阪府大阪市	スカイホール豊田（7/17）、刈谷体育館（7/19）、大坂中央体育館（7/22）
	※男子ジュニア世界選手権	7月17日㈪－7月30日㈰	アルジェリア・アルジェ、オラン	不出場
	※第22回ヒロシマ国際大会	7月28日㈮－7月30日㈰	広島市	
	第37回全国クラブ選手権大会・中地区大会	7月29日㈯－7月30日㈰	静岡県・袋井市	静岡県小笠山総合運動公園エコパアリーナ
	※日韓定期戦2017	7月29日㈯	東京都・未定	男女代表
	第20回ハンドボール研究集会	7月31日㈪－8月1日㈫	岩手県・盛岡市	岩手大学附属小学校（案）
8月	第30回全国小学生大会	8月4日㈮－8月6日㈰	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館他
	第22回ジャパンオープントーナメント・福井国体リハーサル大会	8月5日㈯－8月8日㈫	福井県・福井市、永平寺町	福井県営体育館、福井市体育館、北陸電力福井体育館フレア
	高松宮記念杯第68回全日本高校選手権大会	8月5日㈯－8月10日㈭	福島県・福島市	県営あづま総合体育館、福島市国体記念体育館、福島市西部体育館、福島県立福島商業高校体育館
	※男子ユース世界選手権	8月8日㈫－8月20日㈰	ジョージア・トビリシ、クタイシ、バトミ、テラヴィ	
	東日本学生選手権大会	8月10日㈭－8月12日㈯	北海道・函館市	函館アリーナ
	第25回全日本マスターズ大会	8月11日㈮－8月13日㈰	愛知県・豊田市、東京都・八王子市	スカイホール、エスフォルタアリーナ八王子
	第46回全国中学校大会	8月17日㈭－8月20日㈰	沖縄県・那覇市、豊見城市	沖縄県立武道館、豊見城市民体育館、那覇市民体育館
	※第7回女子ユースアジア選手権	8月20日㈰－8月27日㈰	インドネシア・ジャカルタ	
	※第25回日韓中ジュニア交流大会	8月23日㈬－8月29日㈫	茨城県	
	第44回全国高等専門学校選手権大会	8月26日㈯、27日㈰	東京都・八王子市	エスフォルタアリーナ八王子
	※第9回日韓小学生親善交流（受入）			
	第19回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8月26日㈯、27日㈰	兵庫県・神戸市	神戸アジュール舞子浜特設コート
	NTSブロックトレーニング	8月上旬－	各ブロック	各ブロック
	第42回日本リーグ	8月26日㈯－	各地	
9月	※第21回日韓スポーツ交流（派遣/女子）	9月4日㈪－9月9日㈯	韓国	女子U-16
	※スーパーグローブ	9月4日㈪－9月10日㈰	カタール・ドーハ	
	※日韓スポーツ交流（派遣/男子）	9月11日㈪－9月16日㈯	韓国	男子U-16
	※第2回女子アジアクラブリーグ選手権	9月23日㈯－10月2日㈪	未定	
10月	第72回国民体育大会	10月5日㈭－10月9日㈪	愛媛県・西条市、松山市	西条市総合体育館、ビバ・スポルティアSAIJO、松山市総合コミュニティセンター、北条スポーツセンター体育館
	※日韓スポーツ交流（受入/男子）	10月11日㈬－10月16日㈪	未定	男子U-16
	※第21回日韓スポーツ交流（受入/女子）	10月18日㈬－10月23日㈪	未定	女子U-16
11月	高松宮記念杯男子60回女子53回全日本学生選手権	11月3日㈮－11月7日㈫	石川県・金沢市	いしかわ総合スポーツセンター
	※第20回男子アジアクラブリーグ選手権	11月11日㈯－11月25日㈯	未定	
	第15回日本車椅子競技大会	11月11日㈯－11月12日㈰	京都府・京田辺市	田辺中央体育館
12月	※女子世界選手権	12月1日㈮－12月17日㈰	ドイツ・ハンブルグ他	女子代表
	コーチレフェリーシンポジウム		東京都・世田谷区（予定）	未定
	第69回日本選手権大会	12月19日㈫－12月24日㈰	大阪府他	
	第26回JOCジュニアオリンピックカップ	12月23日㈯－12月27日㈬	沖縄県・	
1月	NTSセンタートレーニング（U-16）		東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	NTSセンタートレーニング（U-13）		東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	※男子アジア選手権			
2月	全日本社会人チャレンジ2018			
3月	第42回日本リーグプレーオフ		東京都・世田谷区（予定）	駒沢体育館（予定）
	第41回全国高校選抜大会	3月24日㈯－3月29日㈭	兵庫県・神戸市、加古川市、高砂市	ｸﾞﾘｰﾝｱﾘｰﾅ神戸、神戸市立中央体育館、神戸国際大学附属高校体育館、加古川市立総合体育館、高砂市総合体育館
	第13回春の全国中学生選手権大会	3月25日㈰－3月29日㈭	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター他

2017.03.01現在　※は国際大会

平成28年度　チーム数・選手数一覧表

2017年２月末

	都道府県	一般L		一般A		リージョナル		大学		高専		高校		中学校		中学少年団		小学校		小学少年団		合計	
		チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	10	202	8	96	40	612	3	70	59	1239	19	345	4	26	5	56	8	87	156	2733
2	青森県	0	0	7	118	0	0	6	110	1	21	17	381	4	50	0	0	0	0	2	20	37	700
3	岩手県	0	0	15	232	12	164	4	74	1	19	37	762	32	726	0	0	4	70	6	111	111	2158
4	宮城県	1	17	3	51	0	0	10	231	2	43	41	1045	21	447	0	0	4	48	4	43	86	1925
5	秋田県	0	0	5	66	0	0	4	71	1	21	9	206	6	86	0	0	0	0	6	46	31	496
6	山形県	0	0	4	88	2	28	2	46	1	19	20	480	5	66	0	0	4	46	2	14	40	787
7	福島県	0	0	7	95	0	0	3	37	0	0	42	817	29	631	0	0	7	123	6	99	94	1802
8	茨城県	0	0	5	58	8	87	4	68	0	0	58	1127	35	711	2	15	5	82	11	127	128	2275
9	栃木県	0	0	4	73	1	3	1	13	0	0	14	311	14	294	2	7	6	69	4	30	46	800
10	群馬県	0	0	7	116	2	23	3	55	0	0	20	443	14	267	2	8	6	72	0	0	54	984
11	埼玉県	1	21	10	181	0	0	9	207	—	0	95	2292	58	1261	0	0	8	74	6	95	187	4131
12	千葉県	0	0	8	148	3	46	8	162	0	0	63	1373	35	709	2	15	10	73	8	69	137	2595
13	東京都	0	0	32	631	50	811	61	1228	2	31	150	3378	77	831	0	0	11	129	2	26	385	7065
14	神奈川県	0	0	8	136	8	92	20	451	—	0	150	3224	108	2150	0	0	9	158	2	18	305	6229
15	山梨県	0	0	6	93	8	107	4	38	—	0	25	443	12	237	0	0	4	47	1	0	60	965
16	長野県	0	0	4	66	0	0	4	58	0	0	34	533	12	253	0	0	0	0	0	0	54	910
17	新潟県	0	0	4	58	3	22	6	93	1	11	11	285	0	0	1	13	1	15	0	0	27	497
18	富山県	0	0	8	118	1	15	5	66	1	14	20	430	36	648	0	0	17	197	3	33	91	1521
19	石川県	1	21	6	107	4	54	8	147	2	49	24	522	24	572	0	0	4	60	0	0	73	1532
20	福井県	1	18	5	67	2	26	5	85	1	35	15	341	11	228	0	0	4	49	1	10	45	859
21	静岡県	0	0	10	152	1	24	5	88	2	41	42	1108	4	88	1	16	0	0	0	0	65	1517
22	愛知県	4	88	14	265	26	208	34	734	1	30	250	6435	193	4720	10	4	11	96	19	247	562	12827
23	三重県	1	20	7	116	1	20	3	42	2	18	42	900	30	627	2	3	4	63	8	80	100	1889
24	岐阜県	1	22	6	103	0	0	6	134	1	24	50	1166	54	1165	0	0	9	169	4	33	131	2816
25	滋賀県	0	0	2	41	2	22	4	72	—	0	21	501	14	302	0	0	2	40	0	0	45	978
26	京都府	0	0	5	79	7	81	18	307	1	19	35	789	30	542	0	0	18	359	0	0	114	2176
27	大阪府	0	0	7	110	0	0	29	629	1	22	110	2677	67	1135	5	44	4	43	8	83	231	4743
28	兵庫県	0	0	8	139	8	111	12	263	1	16	90	1922	30	622	0	0	6	86	1	16	156	3175
29	奈良県	0	0	4	74	0	0	7	119	1	24	26	468	16	383	0	0	4	54	2	27	60	1149
30	和歌山県	0	0	4	47	12	133	2	34	1	20	19	309	16	328	0	0	4	30	2	16	60	917
31	鳥取県	0	0	3	45	0	0	2	29	1	33	16	282	8	120	0	0	4	55	0	0	34	564
32	島根県	0	0	2	30	0	0	1	8	1	29	11	218	2	13	2	17	0	0	0	0	19	315
33	岡山県	0	0	8	157	9	123	9	156	1	15	48	1095	18	322	2	32	0	0	13	217	108	2117
34	広島県	2	38	2	35	5	77	7	131	1	19	22	362	8	93	2	33	2	23	4	46	55	857
35	山口県	0	0	9	129	3	46	2	45	2	43	27	609	18	387	1	7	11	165	0	0	73	1431
36	香川県	0	0	4	64	3	15	3	58	1	32	21	441	19	403	1	8	6	43	6	139	64	1203
37	徳島県	0	0	2	32	0	0	5	58	1	18	12	273	5	86	1	11	0	0	0	0	26	478
38	愛媛県	0	0	7	128	1	18	4	80	0	0	31	741	8	141	0	0	6	67	0	0	57	1175
39	高知県	0	0	4	55	2	24	3	43	1	18	14	195	10	188	2	6	4	71	0	0	40	600
40	福岡県	0	0	7	97	0	0	15	282	4	84	57	1335	28	517	1	1	9	120	2	32	123	2468
41	佐賀県	1	17	4	57	0	0	2	38	—	0	14	244	9	100	0	0	2	22	0	0	32	478
42	長崎県	0	0	5	82	0	0	2	34	1	27	29	569	15	268	1	12	4	54	2	18	59	1064
43	熊本県	1	23	3	58	0	0	4	78	2	35	52	1167	31	537	0	0	14	297	6	83	113	2278
44	大分県	0	0	3	47	5	49	2	15	0	0	12	258	16	211	0	0	11	124	5	54	54	758
45	宮崎県	0	0	3	48	6	42	2	41	1	25	34	694	19	283	0	0	14	140	2	21	81	1294
46	鹿児島県	1	18	2	33	1	14	4	67	1	20	32	630	16	275	2	21	8	94	2	24	69	1196
47	沖縄県	1	19	10	163	18	271	6	122	2	31	78	1743	72	1692	0	0	33	490	4	71	224	4602
合計		16	322	303	5090	222	2852	400	7559	47	976	2099	46763	1308	26060	46	299	299	4073	162	2035	4902	96029

医療施設や介護施設、スポーツ分野など
あらゆるシーンに対応した伊藤超短波の物理療法機器

コンビネーション刺激装置

「超音波」と「電気刺激」の
2つの効果を生み出す
コンビネーション治療器。





ULTRASOUND　HI-VOLTAGE　MCR

小型電気刺激装置

「TENS」・「EMS」・「MCR」を
搭載し、場所を選ばず治療が
できる小型電気刺激装置。





TENS　EMS　MCR

小型超音波治療器

スポーツの現場の声から生まれた
片手での操作が可能な
携帯できる小型超音波治療器。



防水機能
搭載



ULTRASOUND

小型マイクロカレント治療器

いつでもどこでもセルフケアが
できる超軽量でコンパクトな
マイクロカレント治療器。





MCR

ULTRASOUND
[超音波療法]
ミクロマッサージ効果と温熱効果により、疼痛の緩解や筋肉痛、関節痛を軽減します。損傷を受けた筋や靱帯の治療や関節可動域の改善に効果的です。

HI-VOLTAGE
[高電圧電気刺激療法]
高電圧の刺激を加え、深部にアプローチします。疼痛の軽減、筋緊張や可動域の改善に対し、即効性が期待できます。

MCR
[マイクロカレント療法]
微弱な電流を流すことで、組織損傷の治癒を促進します。神経や筋を興奮させないためトレーニング後のクールダウンに最適です。

EMS
[神経筋電気刺激療法]
骨格筋および運動神経に電気刺激を加えて筋の収縮を引き起こし、筋力を強化します。筋萎縮の改善や筋力トレーニングなどに使用します。

TENS
[経皮的電気刺激療法]
疼痛の軽減を目的として、主に知覚神経に対し電気刺激を加える療法です。

測定装置

ヘモグロビン測定装置
ASTRIM FIT

採血せずに約40秒でヘモグロビン
推定値をスピード測定。
リアルタイムでコンディションを
把握できます。



※医療機器ではありません。

体成分分析装置
ITO-InBody370

体の4大構成成分や骨格筋、脂肪、
部位別の筋肉バランスを高精度に測定。
整形・リハビリの指導や評価指標に
活用できます。



※医療機器ではありません。





CONDITIONING
国枝慎吾/眞田卓

2016年度NTSセンタートレーニング報告



NTS 委員長　**金原 理博**

1　開催日時
高校生の部：1 月 5 日～ 1 月 7 日
中学生の部：1 月 7 日～ 1 月 9 日

2　会場
味の素ナショナルトレーニングセンター

3　参加
・ NTS スタッフ（技術指導、運営、審判、トレーナー、情報分析他）
・ 学生サポートスタッフ
・ 講師等
・ 補助指導者
・ 選手：高校生男子 25 名、高校生女子 31 名、中学生男子 36 名、中学生女子 37 名　選手合計 129 名

4　NTS の変遷
NTS は、日本スポーツ振興センター（JSC）のスポーツくじ（toto・BIG）の収益金による助成金を中心に実施しています。2000 年から始まったこの事業も今年度で 17 年目を迎えました。
この事業は、歴代の担当者の努力によって、事業の目的である**【選手の発掘育成・一貫指導の伝達・指導者育成】**において、各委員会が横断的に関わったり、多くの指導者が関わることによって細かい指導を提供ができるなど、より実効性のあるものへと少しずつ変貌を遂げてきました。

5　活動内容
2016 年度の NTS センタートレーニングは、各ブロックから選ばれた選手・推薦された指導者と NTS スタッフによって、中学生・高校生とも 2 泊 3 日のスケジュールで、開催いたしました。初日には、蒲生副会長兼専務理事から、将来の日本のハンドボール界を託された選手たちへ熱いエールをいただき、選手スタッフ共に気持ちを引き締めてスタートしました。
トレーニングプログラムについては、ハンドボールの技能の習得にとどまらず、「ファンダメンタルスキル」や、ハンドボールに適した効果的な動きの習得のためにトレーナー部会で考案された「ベーシックセブン」をトレーナーの方の指導の下、実施しました。
また、ゲームでは審判の視点も取り入れて指導を受けました。

【ハンドボールスキルトレーニング】
技能の習得、技術の伝達と指導者の資質向上を図るため、「前男子ナショナルチームヘッドコーチ：オルテガ氏」の戦術からヒントを受けて、内容の一部として、次のように取り入れました。
〈DF スキルトレーニング〉
牽制を入れながらの DF、PV を押し上げながら 2 対 2 の連携の習得を狙ってトレーニングの実践を行いました。
テーマ「個人スキル」
①牽制からの 1 対 1
②バックコートエリアでの 1 対 1
③バックコートエリアでの 2 対 2
「グループスキル」
④ 2 対 2 BP と PV（ポストプレーヤー）



〈DF スキルトレーニング〉

〈OF スキルトレーニング〉
ピボットプレーヤー（ポストプレーヤー）の位置を利用したプレーの構築。特にドリブルを使いながらチャンスを作る動きの実践を行いました。
テーマ「個人スキル」
① PV への様々なバウンドパス
② 2 対 2 攻略のためのドリブルスキル
③ドリブルを使いながら広く 2 対 2 を攻める



〈OF スキルトレーニング〉

〈GK スキルトレーニング〉
テーマ「個人スキル」
① GK 敏捷性トレーニング
②シュート後の着地技術
岸本健太さん、尾石智洋さん、麻生薫さん、濱野健一さんを中心に、インストラクターとして各ブロックから推薦された指導者の方のご協力をいただき、熱心な指導の下に充実したトレーニングを行うことができました。

【各ブロックのインストラクター】
〈北海道ブロック〉藤井浩史さん、高橋容平さん
〈東北ブロック〉荒井啓貴さん
〈関東ブロック〉榎本雅秀さん、飯田健一さん、田口貴仁さん、熱田翔さん、泉原本雄さん
〈北信越ブロック〉古橋健太さん
〈東海ブロック〉日比野起年さん
〈近畿ブロック〉明石光史さん
〈中国ブロック〉河野裕光さん、小松史果さん
〈四国ブロック〉山口修さん、谷口英司さん
〈九州ブロック〉上田芳久さん、河原亮さん、川野敦史さん、百田哲郎さん、佐渡瀬英嗣さん、金子慎吾さん、赤峯真樹子さん
GK コーチの指導者のご協力をいただき手厚く内容の濃い指導ができました。
GK コーチの指導者：北野香代さん、藤間かおりさん、小松理子さん、松村昌幸さん
最終日のゲームでは、審判委員会から国際レベルの審判員を派遣いただきました。
国際レベルの審判員：福島亮一さん、田渕元雄さん、島尻真理子さん
審判員のジャッジを行う基準の考え方を学び、実際にゲームのジャッジをしていただくとともに、国際レベルのゲームを踏まえて審判の目から見たアドバイスをいただき、選手にとって良い刺激となりました。

【知識：知的スキルによってハンドボールに対する取り組みや選手としてどうあるべきかを考えさせる】
〈講義〉

「世界で戦った経験を活かして」
U-24 コーチ：豊田賢治さん
U-18 コーチ：石川浩和さん
U-16 コーチ：大原雅広さん

世界で戦った経験を活かして日本の戦い方、モチベーションのもち方等について学びました。

「大会に参加したアスリートとして」U-18 女子代表：行本朱里さん、金城ありささん
U-16 代表：榎本悠雅さん、佐藤優香さん、瀧川璃紗さん

実際の試合の体験談を交えながら話をしていただきました。

〈話合い〉
「チームビルディングとは」麻生薫さん

「チームビルディング」をテーマにワークシートを使って話合いを行いました。



〈知的スキル〉

〈コーチングセミナー〉

指導者を対象としたコーチングセミナーでは、以下の講義を受けました。

「育成すべき選手像～アクティブラーニング～」尾石智洋さん
「トレーニングコンセプト」トレーナー部会　篠原博さん

指導者の方がトレーニングコンセプトを学び様々な研修を通して、指導力の向上を図りました。

以上のプログラムを通して、全国から選ばれた指導者が指導実践を行うことでブロックの枠を超えた指導内容の情報交換をすることができました。また、全国から集まった選手は、全てのプログラムにおいて共に切磋琢磨してトレーニングに励みました。プログラムから受けた刺激は必ず本人の成長の一助となり、日本のハンドボールのこれからを支える礎となることを期待しています。

6　日程について

今回のセンタートレーニングは、5 日間の日程で中学校、高校のカテゴリーを熟すという強行スケジュールでした。特に、1 月 7 日㈯は、選手はもちろん、補助指導者・インストラクターの入れ替えがあり、受付業務や打合せに追われることとなりました。全日程を通して協力していただくスタッフの方は、休憩や昼食もゆっくりと取れずに次のカテゴリーの指導に入る状況であり、今後の課題であると考えます。

昨今、日本のハンドボールに係る行事等が錯綜している中、スケジュール調整等では毎年頭の痛い問題となっています。全国の指導者やスタッフの方のご好意、ご協力の下、開催できている現状です。

また、各県・ブロックでは、学校行事・全国大会の予選・強化合宿等で選手・指導者の派遣が厳しい中、次世代の子供たちのためにご理解いただいています。



〈スタッフミーティング〉

7　今後の NTS

リオオリンピックに出場できなかった今、ハンドボールを取り巻く環境は大変厳しいものです。2020 年の強化と同時に、2024 年・2028 年に向けて選手の発掘育成と指導者育成は、急務であります。

次の時代に夢を繋ぐために､本事業では､活躍している優秀な人材とともに、各都道府県で全国大会等に出場する機会に恵まれず埋もれてしまう優秀な人材を全国の指導者の方等の力を借りて「見つけ、育て、活かす」事業に引き続き取り組んでいきます。しかし、少子化が進む中、小学生の指導者は日々選手の確保に苦労しながら日本のハンドボールを支えている現実です。ハンドボール競技の生き残りを考えると、早期に若年層（幼少期）に目を向け、発掘していくことも必要であると感じます。

今後 NTS は、日々変化していく世界のハンドボールスキルや戦術のトレンドをいち早くキャッチし、情報提供をしていきます。併せて、ハンドボールの日本スタイルとして忘れてはいけない普遍的なものを提供できるように、NTS の役員全員で力を合わせていきたいと考えます。

最後に、センタートレーニングの実施にあたり、各ブロックでのトレーニングにご尽力いただいた運営・技術指導スタッフの皆さん、並びに選手・指導者を派遣してくださった所属チームの関係者の皆さん、NTS の運営に関わっていただいた方々に感謝の意を表します。

お知らせ

『送球ボーイズ』第4巻発売中！

『送球ボーイズ』原作者のフウワイです。再び貴重な場を頂き､ありがとうございます。

全国のハンドボールプレイヤーの皆様、関係者の皆様のご支援によりおかげ様で連載も 1 周年を迎えることができ、新人戦のラストまでが収録された最新コミックス 4 巻が 3 月 17 日㈮に発売となりました。書店にてお見かけの際は是非お手にとって頂ければ幸いです。

また、3 月 26 日より氷見市で開催される第 12 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会の会場にてサイン会を行うにあたり、会場でもコミックスを発売致しました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



2016NTS 関東ブロックトレーニング

NTS 関東ブロック運営委員長　**菊田 政行**

開催日時：2016 年 8 月 27 日㈯～ 28 ㈰、9 月 3 日㈯～ 9 月 4 日㈰
会場：茨城県「常総市水海道総合体育館」、「県立水海道第二高等学校体育館」、「守谷市常総運動公園体育館」
参加者（※延べ人数）：　※ NTS スタッフ 37 名　※ 補助指導者 63 名　［選手］小学生 48 名、中学生 48 名、高校生 48 名

今年度の関東ブロックトレーニングを茨城県協会の皆様のご理解とご協力の下、8 月下旬、9 月上旬の 2 週に渡り開催いたしました。関東ブロックは 8 都県 17 回目の 3 巡目に入り、運営・指導面ともにスムーズに展開され、中学生・高校生のトレーニングは 1 泊 2 日で実施いたしました。

トレーニングはインストラクターを始め指導スタッフの熱意あるご指導のおかげで、意図が明確でポイントが理解しやすく説明・実践されていると、選手・補助指導者からも大変好評でした。

また、NTS 委員長金原理博氏、NTS 技術指導委員会よりディレクターの北林健治氏、永野翔大氏に来県頂き、スケジュールの中で選手への激励・トレーニングの指導を頂きました。また、次年度よりカテゴリーの変更予定についてレクチャーを受けました。参加の選手並びに補助指導者の皆様には、この経験を糧に一層の努力精進をご期待いたします。

恒例になりました夜の懇親会が茨城県協会のはからいで開催され、会田真一協会長を始め、ディレクター・インストラクター・補助指導者・地元協会関係者・運営スタッフ等を交えての情報交換で大いに盛り上がり、ハンドボール談義に華が咲きました。参加者にとって大変有意義な研修の時間を過ごすことが出来ました。

今後の課題としては、ブロックトレーニングへの補助指導者の参加率向上を図る事と開催期間中に指導者の研修やディスカッションの時間を確保する事、実施している体力測定の結果についても複数年分の記録の推移を公開し、その結果に基づいたトレーニング処方等を個々の選手に示して頂き、『世界基準の強い選手』への育成を切に願うところです。



また、NTS への参加選手の輩出チームが県によっては特定化される傾向にあります。NTS の方針なり情報・運営方法等が広く伝達される機会を確保して、指導者の養成・資質の向上を目指して、選手を輩出しないチーム指導者のトレーニングへの参加の機会を検討して参ります。

各都県においては NTS の伝達講習を確実に実施していただき、NTS の情報が全チーム、関係者に速やかに浸透することをお願い致します。

最後になりましたが、ブロックトレーニングの開催に当たり、多くの皆様のご理解・ご尽力に対しまして厚く御礼申し上げます。NTS ブロックトレーニングの今後一層の充実に向け、さらなる皆様のご支援ご協力をお願い致します。





～HPのリニューアルを機に…～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

２月１日、日本協会のホームページを開いて一瞬、目を疑った。「あっ、間違えたのではないか」と思ったほどの強烈な印象だった。まず目に飛び込んできたのが、世界選手権に出場した男子日本代表の写真だった。日本選手権の写真も続いて現れた。その下には最近の大会の情報を伝えるアイコンが並んでいた。これまでのホームページとは、まったく趣を異にして、鮮やかなイメージ。さらにはファン用と関係者用と２つの閲覧用が用意してあった。すがすがしいというか、華やかというか、何とも素晴らしい感じのリニューアルである。またもう一つ、リニューアルしたものがある。プレスリリース。こちらも「ハンドボール」の文字がすぐ目に飛び込んできた。日本協会カラーの黄色も鮮やかに映えている。なんともすっきり感が素晴らしい。いずれも今後、アピールするものがどのように露出され、あるいは、メールが届けられるか…ワクワク感があり、楽しみである。

そこで改めて思った。いくらリニューアルしても内容が伴わなければ意味がないのは当然だろう。2020 東京五輪はもう３年後に迫り、その前年の世界選手権までは２年しかない。この２つの大イベントをホームページ、プレスリリースを積極的に活用して盛り上げたいものである。男子日本代表の監督に新たにシグルドソン氏が就任、女子日本代表監督とともに外国人に強化を委ねることになった。彼らの動向や代表にまつわるニュースを細かく伝え、世間にアピールしていきたいものである。男女の代表合宿や海外遠征、あるいは候補合宿のメンバーなどを事あるごとに発信したい。また、ケガなどによる選手の辞退や交代、あるいは海外遠征のスケジュールも逐一、細かく情報公開し、少しでも多くの人たちに告知することが大切だ。せっかくの見事なホームページを生かさない手はないだろう。とにかく積極的に活用して「ハンドボール」という競技をトップ競技に押し上げる努力は欠かせない。今や社会は情報発信時代。どんな小さな事柄、ニュースでも消極的でなく、どんどん前向きな姿勢を取り続けていきたい。

今後、東京五輪が近づくにつれ、他の競技団体も積極的にアピール度を上げてくるに違いない。まさに“情報大洪水”といえるくらいになることが想像できる。日本協会としても地方協会との連係を深めながら、事前合宿なども世に送り続けたい。それが代表にも側面的なバックアップにつながってくるはずだ。ホームページを見ながら大きな夢を膨らませたい。



米子ジュニアハンドボールクラブ

文責・小澤 美紀子

❶ チーム名　米子ジュニアハンドボールクラブ

❷ 発足時期　平成 27 年 5 月

❸ 発足のきっかけ、立ち上げに苦労した点、壁をどのように乗り越えてきたか

【発足のきっかけ】隣の境港市では、小学生チームが活動をし、中学校にも部活動でハンドボールがあります。中学校を卒業し、高校でもハンドボールを続ける選手はいるものの、人数が少なく、高校全体のレベルアップにつながっていない現状です。一方、米子市は、高校のチームはありますが、中学校に部活動は無く、境港市からの経験者と高校から始めた初心者でチームを組む現状でした。鳥取県協会として、何とか裾野を広げる活動が必要であると考え、米子市に小学生チームを立ち上げることになりました。

【立ち上げについて・壁をどのように乗り越えてきたか】先ず、チームの形態、指導者の確保、選手の募集、練習場所、について一つずつ解決できるように各方面の方々に協力を得ました。

- **チームの形態**…米子市ハンドボール協会と米子市の教育委員会の協力を得て、ハンドボール教室という形で立ち上げました。クラブチームとして大会参加も行っています。
- **指導者**…米子市周辺に在住しているハンドボール経験者に声をかけ、チームの趣旨に賛同した人たちが指導しています。
- **選手の募集**…平成 26 年度の冬休みに、米子市の小学校にチラシを配布し、ハンドボール教室を開催しました。20 名弱の子ども達が参加しました。翌年 4 月に再度募集のチラシを配り、5 月より活動を開始しました。冬休みの教室に参加した子ども達の他にもたくさんの申し込みがあり、36 名でスタートしました。現在は 56 名となりました。
- **練習場所**…毎週金曜日：米子市民体育館（小学生・中学生)、毎週月曜日：米子市立加茂小学校体育館（中学生・高学年)。米子市では、ハンドボールができる体育館が米子市民体育館しかありませんでした。お願いして、米子市立加茂小学校の体育館を使わせてもらえることになりました。また、米子市民体育館は、発足当時は、練習の度にゴールを組み立て、ラインテープを引かないとコートが無く、始めの準備と片付けで練習時間の 3 分の 1 を費やしていました。現在では、ハンドボール教室も定着しつつあり、協力を得て、準備、後片付けの時間も短縮しました。

❹ 現状の課題△と解決方法○

△小学生チームとしてスタートしましたが､小学校を卒業すると、米子市内には中学生のチームがありません。昨年度卒業した中 1（男子 1 名・女子 3 名）の選手は、小学生と一緒に活動していますが､中学生としてのチームが組めない状況です。また、学校の部動をしながらの活動になってしまい、練習に参加できる日が限られます。

○市内の高校と連携し土曜日、日曜日など、比較的中学生が参加しやすい日に合同練習をしています。

△ハンドボール教室という形で発足しているため、現在、保護者会の活動はありません。教室（クラブ）の運営方針や事務処理は、スタッフから保護者へ理解を得ながら活動しています。

○今後は、保護者に協力してもらえるよう、体制づくりに努めています。

△ハンドボールの認知度が低いです。

○ SNS などを利用しながら啓発しています。

❺ これから立ち上げを検討している方々へ

私たちは日々、子ども達の成長やチーム力を高めようと懸命に活動していますが、いろいろな方のアドバイスや力をお借りしてここまでやってこれたと思います。一つ一つの課題をスタッフや保護者、協会や教育委員会、体育館の協力を得て、一歩一歩地道に活動しています。選手の成長が今は一番の楽しみになっています。

❻ ハンドボールを一層拡大するためには

- 小学校の学習指導要領にハンドボールが明記してあるのにもかかわらず、ハンドボールを知らない先生や、ハンドボールができない環境の体育館が多すぎます。ハード面、ソフト面両方の整備が必要だと思います。
- 冬場、雪が降って活動が制限され、他の競技団体と体育館使用を分け合う山陰地区ですが、ハンドボール競技をどの体育館でも実施できるよう、普及していきます。
- 小学生は、裾野を広げる事が目的だと思います。勝利至上主義によって燃え尽き症候群にならないためにも、研修会を充実させるなど、全国で一貫した指導体制を構築することが必要だと思います。
- 日本リーグをプロ化し、子ども達に夢を与えてほしいです。



HC山形

文責・冨樫 陽介

❶ チーム名　HC 山形

❷ 発足時期　2014 年 10 月

❸ 発足の切っ掛け、立ち上げに苦労した点、壁をどのように越えて来たか

2014 年以前は山形県内には小学生ハンドボールチームが２チームしか無かった。特に山形市内には高校部活動としてのチーム数は多いが中学部活や小学生チームが無く、高校から始める子どもが多いのが現状でした。山形県内のレベルアップやひいては日本のハンドボールの普及を考えていた私と社会人チーム「上送」の有志数名で山形市内にまずは小学生チームを立ち上げる話が出ました。立ち上げの際には場所の確保、ハンドボールの存在が知られていない土地での人集め。この二つに苦労しました。場所の確保については、いくつかの市内の小学校へ問い合わせをしましたが、すでに空きがある状態では無く、また市の体育施設は毎月の抽選のため、安定した場所の確保が難しい状況でしたが、運よく二つの小学校の体育館を使用できる状態となりました。人集めに関しては、インターネットや SNS を利用した告知や小学校へのチラシを配布、知人への勧誘などで 2014 年 4 月からハンドボール体験会としてスタートし、半年ほど経過し、子供達も徐々に増えていく中で 2014 年 10 月にクラブチームとしてスタートしました。

❹ 現状の課題と解決方向

チーム発足から２年が経ち、男子チームはメンバーも増えましたが、女子チームのメンバーがどの学年も足りない状態です。少子化の社会に置いて、どのスポーツ団体も人集めに苦労されていると聞きます。スポ少では無くクラブチームとして活動している強みで市内各地の小学校だけでなく、近隣の市からも参加するメンバーもいるので、情報発信は常にし続けるようにしています。また、体育館も年度によって使用できない時期もあるので、練習場所の確保を常に探し続ける状態です。さらには競技力の向上のためにも指導者の資質を上げるべく、指導者講習会への参加などを通して、質の高い指導が子供たちに行き届くように心がけています。

❺ これから立ち上げを検討している方々への助言

物理的な問題（練習場所や生徒の確保、練習道具など）は努力次第で解決できることの方が多いと感じました。それ以上に指導者がどれだけ情熱を持って取り組めるかが大事になるかと思います。自分自身がハンドボールを愛しており、子供達とハンドボールを楽しみ、ハンドボールを選んでくれた子供達が一人でも多くハンドボールを好きになってくれることを夢見ながら歩み続ければいいのかなと。

❻ ハンドボールをより一層普及拡大するためには、夫々のレベル（市、県、日本協会）への提言など

ハンドボールというスポーツ、そのものを知っていただく機会が少ないと思います。そこで子供達へのハンドボール体験教室などを協会主体で定期的に行い、そこから興味を持った子供へチームの紹介をする仕組みができればと思います。また、山形県に限ってみてみると小学校、中学校体育の授業で行われません。専門でやってきた教員が少ないことや、そもそも学校にハンドボールを行う設備（ゴールやボールなど）がないことも原因なのかと。中学部活動に絞ると、このご時世、創部することが困難であることから、クラブチームによる活動が主体になるのかと思います。私たち、HC 山形では小学生が主ですが、卒業生の受け皿となる中学部活が山形市内に存在しないので、中学生カテゴリーを 2016 年よりスタートさせ、小、中学校一貫で指導できるような体制を整えました。そのようなクラブチームをサポートしていただけるようなシステムを協会側にお願いしたいところであります。

欧州便り

現状維持は停滞でなく衰退だ

小田中叡人

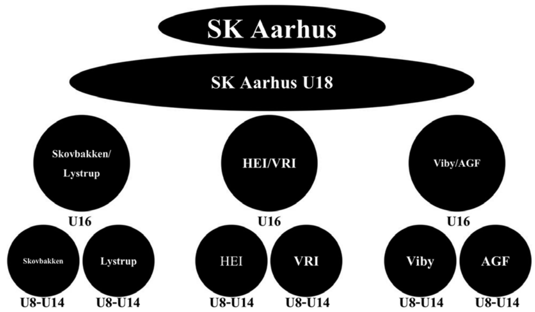
初めまして。小田中叡人（オダナカアキト）と申します。現在、デンマークのオーフスという町でクラブチームのコーチをしています。今回このような機会を頂けた事を大変嬉しく思います。今回は「国民性とハンドボール」というテーマを設定し、デンマークでの生活やコーチングを通して感じている事、考えている事を少しでも還元できたらと思います。

デンマークに来た経緯

私は多くの強豪国が集まるヨーロッパの中で、留学先としてデンマークを選びました。理由は、ハンドボール発祥地であり、国民の幸福度も世界で有数のデンマークにおいて、ハンドボールがどのような位置付けで、人々にどのように影響を与えているのかを知りたかったからです。また、この疑問の解消の過程で、選手の育成や自らのコーチング技術を高めるためのヒントも得られるかもしれないとも思ったからでした。しかし、実際にデンマークに来て、学んだことの多くは、一人のコーチ・人としてどう在るべきかという人間性やハンドボール以外の部分ばかりでした。議論の必要もなく、日本においてもコーチとして人格者である必要があると思います。SNS の発達により多くの海外の情報が日本を出ずとも得られるようになりました。もしこれから海外でコーチングを学びたいと考えている人がいれば、海外へ行く動機や学びたいことは海外でしか学べないことなのかをもう一度考える必要があるかもしれません。

ボランティアの力

私は現在 HEI/VRI U16 というチームでヘッドコーチを務めています。このチームは日本にも馴染みのある SK オーフスの下部組織にあたります。コーチングに関しては私一人で行っています。しかし、チームの運営や事務的なことなどの多くのは、選手の保護者がサポートしてくれています。デンマークのハンドボールにおいて、選手の保護者も含めたボランティアの方々の力は非常に重要なものです。多くのチーム、特にユースカテゴリーにおいては、試合の運営、準備、チームのコーチングや運営さえもボランティアの方々が行なっていて、育成大国デンマークとして不可欠な土台となっています。人口約 570 万人（東京の半分以下）のデンマークで約 11 万人以上の人々がハンドボールをプレイしている背景にはボランティアの方々の力があるといえます。もちろん、そもそも多くの人々がハンドボールをプレイしているデンマークだからこそ出来ることともいえます。



SK オーフス下部組織の図
この中で HEI/VRI というチームでコーチを務めています

フォルケホイスコーレについて

私は生活の拠点としてフォルケホイスコーレという北欧特有の成人教育機関を利用しています。この教育機関は通常の公教育から切り離された私立学校のようなもので、スポーツ系や芸術系や人文系など、あるものに特化したタイプのものもあります。またここは全寮制であり、授業も含めた生活全般を共にします。

この教育機関は民主主義社会のデンマークにとって非常に重要な場所となっています。そこには『「死んだ文字」ではなく「生きた言葉」による「対話」と「共生」』という理念が存在し、多くの時間を共にする事で「人間同士の対話による相互の人格形成」を目指す場と位置付けられています。デンマーク人は皆が平等という国民性を持っています。そのこともあって、生徒は指導者から学び、指導者もまた生徒から学ぶという環境がここにはあります。学費は行政により支援されているため比較的安く、多くのデンマーク人は高等教育



生活の拠点のフォルケホイスコーレ

終了後、フォルケホイスコーレに通い（もしくは長期の世界旅行）、生きるモチベーションや生きていく判断力を育んでいきます。デンマーク国民にとって対話は非常に重要な要素の一つで、その部分を育むフォルケホイスコーレという環境は民主主義社会であるデンマークに大きく貢献しています。

ハンドボールにおける「対話（dialogue）」

ハンドボールの場面においても、多くのコーチが対話の重要性を口にします。ではなぜ、対話というものがそんなにも重要な要素なのでしょうか？　それは、指導者だけの力では指導者の力量の範疇でしかチームが発展していかないからです。一人一人が意見を発し、コーチ（リーダー）がそれらを一つの方向に導くために、対話は重要な役割を担っています。対話は、ハンドボールのみならず、ある集団が発展していくための共通した重要事項といえるでしょう。

日本の指導現場において、指導者と選手の対話は少ないように思います。それは日本特有の「本音と建前」という風習に大きく影響を受けているのかもしれません。しかし、対話のない集団は指導者の一方的な指導が日常化し、選手は考える事を辞めます。すると、選手は答えだけを求めるようになります。この過程を経て、指導者の言うことだけを体現しようとする、言うことだけしか体現できない選手が出来上がります。これでは選手の創造性や考えの幅が広がらないだけでなく、指導者の考えの幅も広がっていきません。人は質問をしたり、答えたりすることを通して、自らの考えを整理し、意見として固めていきます。だから話を聞くということは相手に学びの場・時間を与え、学びを促すことに繋がるのです。



選手にとってハンドボールは人生の一部でしかありません。選手と指導者が対話する事は、教育的な面から見ても非常に重要な事なのかもしれません。

変化する勇気

ここまで話してきたことはあくまでデンマークにおいてのやり方だということを忘れてはなりません。日本とデンマークでは言語が違えば文化も国民性も生きてきた環境も違います。見聞きしたものを無条件に信じてコピーするのではなく、自分なりに思考し、いい部分や必要な部分をポケットにしまい、自らの哲学を創造する必要があります。なぜならば、コピーはオリジナルを超えることはできないからです。

日本のハンドボールを変えるために日本全体の文化を変えることは不可能です。しかし集団・チームは変えることができます。集団を変えるためにはリーダー・指導者が変わらなければなりません。多くの人が安定を求め、変化を恐れます。変化をしたいと思った時、元に戻そうとする力（慣性力）が働くのは人間の本能だと思います。その為変化には、強い意志や莫大なエネルギーが求められます。「自分たちのやりたいことができなかった…」こんなフレーズを試合後に耳にします。「あの時はできていたのに…」といつまでも過去と現在を比較しているケースを目にします。現状維持は停滞ではなく衰退です。時代はとめどなく、急速に変化しています。ハンドボールもまた、ルールの変更や育成システムの発達により急速に進歩しています。現状維持できていると思って顔を上げても、そこに同じ景色はありません。時代変化の速さと同速度で自分を変化させて始めて現状維持です。私たちはハンドボールを担うリーダーとして、指導者として一人一人がそれぞれの持ち場で時代よりも変化する勇気を持ち、集団を発展させていく必要があります。このことが日本のハンドボールを変えていくことに繋がるのではないでしょうか？

公益財団法人 日本ハンドボール協会編　機関誌「ハンドボール」 web 化のお知らせ

平素より機関誌をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

この度、当協会編機関誌「ハンドボール」ですが、今号（4/1 発行号）をもちまして、印刷冊子での配送を取り止め、インターネット上で公開させていただくこととなりました。

より多くの方にご覧いただくとともに、ページのカラー化と更新頻度の向上及び内容の充実を目指しての改革となるとともに、当協会ホームページからバックナンバーもご覧いただけるようになっております。

事情ご賢察の上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 日本ハンドボール協会
会 長　　　渡辺　佳英
編集兼発行人　蒲生　晴明
機関誌専門委員会

編集後記

1960年5月、日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」が発行された。以降、1972年8月に100号、1981年9月に200号、1990年8月に300号、1999年9月に400号、2009年5月に500号、2017年3･4月号（本号）にて566号を数える。冊子としての発行は今号が最後となり、次号567号からは日本協会ＨＰ上への掲載と形を変える。協会機関誌としての役割は継続するが、時代の要請もありネット社会の中で更なる前進を期待して、一区切りを迎える。この間、多数の方々の支援と協力で発行を重ねてきた。この場を借りて改めて御礼申し上げます。　機関誌専門委員長：近久紀人

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」1･2月入会・継続会員

【岩手】多田和生【埼玉】沼倉陽子、沼倉　久、寺尾嗣子【千葉】窪田　優【東京】伊東　卓、田村正一、田村裕子、荘林康次、杉山　茂【神奈川】相原康宏、岡本　大【長野】後藤政俊【新潟】遠藤正伸【富山】松浦良一、松浦雅恵、尾上朋子【石川】寺垣俊彦【福井】峰　悠介【静岡】長橋淳夫【愛知】安永光宏、十枝内厚次、池宮城正吉、宮地光男、濱添陽光、不破嘉彦、森上真樹、岡田洋典【三重】黒木　忍【京都】廣瀬佳代【大阪】舟崎智芳【奈良】木村加代、木村和正【熊本】葦原大三、若杉和男、川上靖浩【宮崎】江夏正弘

【４月の行事予定】

【大会】4月16日（日）～19日（水）　第14回東アジアクラブ選手権（男・女）　　（中国・安徽省合肥市）

HANDBALL CONTENTS Mar.Apr.

次号５月号（№567）は５月１日発行予定です。


molten
For the real game
molten For the real game
Official Partner of IHF
国際ハンドボール連盟
公式試合球
IHF OFFICIAL GAME BALL
[3号球] 品番 H3X5001-BW ¥8,400（本体価格）+消費税
[2号球] 品番 H2X5001-BW ¥8,200（本体価格）+消費税
国際公認球 検定球 人工皮革 縫い ブルー×ホワイト ラテックスチューブ
www.molten.co.jp

（公財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第五六六号
平成二十九年三月二十六日印刷
平成二十九年四月一日発行
東京都新宿区本塩町二三 第2田中ビル7F
電話 代表 〇三－六七〇九－八九四〇
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 蒲生晴明
定価 年間三三〇〇円